



公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

多摩地域行政連携事業 政策スクール

2013

「明るく、縮む？多摩」

多摩地域行政連携事業 政策スクール2013 プログラム

- テーマ 「明るく、縮む？ 多摩」
- 目的 東京都多摩地域の人口は地域の基盤をなす重要な要素であり、人口が減少することは、地域活性化、まちづくりの点で大きな阻害要因となる。この状況で『多摩地域 30 行政の連携促進を行い、単一行政では解決できない課題等の解決や複数行政が連携することで発揮されるシナジー効果を多摩地域の活性化につなげる「成果物」を作る』ことを目的として、人口減少が続く中で、多摩地域の魅力を知っていただくために、自治体職員の若手人材、および人事担当者、行政活動に興味を持つ学生を対象とした研修「政策スクール」を開講する。
- 開催日 平成25年11月8日（金） 9：30～18：00
- 会場 東京都市町村職員研修所（東京都府中市新町2-77-1）
- 内容 **第一部 ワークショップ**（9：30～11：45 / 306・307・309研修室）
 - ・第1テーマ 「“職住近接” から見る多摩の魅力」
ファシリテーター：中庭 光彦 氏（多摩大学 経営情報学部准教授、学長室長）
 - ・第2テーマ 「新しいコミュニティとビジネスのつながり」
ファシリテーター：根本 忠宣 氏（中央大学 商学部教授）
 - ・第3テーマ 「少子高齢化社会における商店街の役割」
ファシリテーター：片野 浩一 氏（明星大学 経営学部准教授）**第二部 基調講演**（13：30～15：10 / 階段研修室）
 - ・主催者挨拶
小川 哲生（明星大学学長、公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩会長）
 - ・基調講演「多摩の円熟期を明るく生きる」
馬場 弘融 氏（元 公益財団法人東京市町村自治調査会理事長、前 日野市長）
 - ・質疑応答**第三部 全体会・懇談会**（15：20～18：45 / 階段研修室、食堂）
 - ・ワークショップ報告（市長、ファシリテーター講評）
コーディネーター：細野 助博（中央大学教授、ネットワーク多摩専務理事）
 - ・修了証、感謝状 授与
 - ・全体講評
 - ・懇談会
- 運営 主催：公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
後援：公益財団法人 東京市町村自治調査会
協力：ネットワーク多摩 加盟大学・行政・企業・団体

プログラム	／01
はじめに	／03
第1部 ワークショップ	／04
ワークショップ1 “職住近接” から見る多摩の魅力	／06
ワークショップ2 新しいコミュニティとビジネスのつながり	／08
ワークショップ3 少子高齢化社会における商店街の役割	／11
アンケート	／13
第2部 基調講演	／18
主催者挨拶	／19
基調講演	／19
質疑応答	／26
アンケート	／33
第3部 全体会（政策提言発表・講評）・懇談会	／36
話題提供	／37
政策提言1 “職住近接” から見る多摩の魅力	／40
政策提言2 新しいコミュニティとビジネスのつながり	／47
政策提言3 少子高齢化社会における商店街の役割	／53
全体講評	／61
修了証・感謝状 授与式	／61
懇談会	／62
アンケート	／63
政策スクール2014にむけて	／66
政策スクール2013 参加機関	／70
政策スクール2013 運営委員	／74

publicity poster design : Tomoe Maruyama



はじめに

1970年代から首都圏に流入した人口は都心からやがて郊外に居住地を移してゆき、多摩地域に代表されるようなニュータウンが郊外地域に次々と造成された。これが「郊外化現象」である。バブル期を挟んで地価の上昇もあり、郊外化は一層進展したが、やがて2000年に近付きつつある頃から都心の地価の沈静化に伴う都心回帰が開始された。1998年まで一貫して多摩地域の人口伸び率が23区を凌駕していたが、共稼ぎが一般化したことによる職住近接志向は都心回帰への流れを加速させることになった。特に2005年以降人口の社会移動は、都心23区への入超、多摩地域からの出超が一般化し、都心回帰は定着することになった。

人口の動きは23区の若年人口（15歳～29歳）の人口構成比が多摩地域よりも高まり、それによって多摩地域の人口高齢化は加速の一途を辿っている。また、多摩地域の工場誘致は一定の人口定着に効果をもっていたが、経済のグローバル化、工場周辺の住宅化により、操業に関して様々な制約が出てきた。結果、大工場を中心として国内外への移転傾向も出てきた。

以上の時代的变化の中で多摩地域が首都圏にあることのメリットとデメリットを正確に認識し、共有化し、そして政策的に連携する時期が到来している。このような問題意識から、ネットワーク多摩では複数の自治体が参加している強みを活かし、参加大学の協力も得て「政策スクール」を立ち上げた。

政策スクール立ち上げはネットワーク多摩の行政部会における問題提起から始まった。若い自治体の職員を中心として、多摩地域が抱える様々な政策課題から3つのキーワードを選び出し、それを3つのワークショップに振り分ける作業を行った。その3つの政策課題は「職住近接」「コミュニティとビジネスの関連性」「商店街活性化」であった。それぞれ新進気鋭の学者をコーディネーターに、ネットワーク多摩加盟自治体の人事担当者の協力を得て、若手の実力派職員の参加、そして意欲のある学生も加えることによって、短時間で高い成果を上げるワークショップが実現できた。その具体的な成果はこの報告書に見られるとおりである。また、元日野市長馬場様に経験豊か、かつ幅広い視点からの講演をいただき、行政職員を中心とした参加者に深い感銘を与えた。ワークショップの成果は全体会で発表されたが、阿部多摩市長、大坪日野市長、加藤福生市長による心あたたまる講評も得た。

この政策スクールは毎年開催する予定である。できるだけたくさんの人達に参加していただき、多摩に存在する大小様々な政策課題解決のために連携の力を使っていくことを、この政策スクールを出発点として位置付けたい。

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
専務理事 細野 助博（中央大学総合政策学部教授）

第1部

ワークショップ



network TAMA

第1部 ワークショップ

趣旨目的

専門分野の講師を招き、3つのテーマに分かれて自治体職員6名と学生4名の10名が事前課題を基に魅力ある多摩地域の未来に繋がる政策提言を考える。

ワークショップ

- 第1テーマ 「“職住近接”から見る多摩の魅力」
ファシリテーター：中庭 光彦 氏（多摩大学 経営情報学部准教授、学長室長）
- 第2テーマ 「新しいコミュニティとビジネスのつながり」
ファシリテーター：根本 忠宣 氏（中央大学 商学部教授）
- 第3テーマ 「少子高齢化社会における商店街の役割」
ファシリテーター：片野 浩一 氏（明星大学 経営学部准教授）

共通課題（課題A）

以下の文献・資料を読み、多摩地域の20年後を描いたシナリオ像のSWOT分析を行い、課題Bに取り組んでください。

- ①まちづくりのスマート革命（著：細野助博）
- ②人口減少期における多摩地域の「縮む」未来図（出展：東京市町村自治調査会）

事前課題（課題B）

ファシリテーターが作成したシラバスを読み、事前課題に取り組んでください。

プログラム

- 事前課題や目標設定から、事例紹介を踏まえて政策提言を考える討論を行う（2時間30分）
- 午後の全体会で報告するためパワーポイントで発表資料を作成する

ワークショップ 1

テーマ：「“職住近接” から見る多摩の魅力」

事前課題（課題B）

<シラバス>

サブテーマ：地元の魅力を「見える化」し、職・住・経営に便利な連携をつくる

なぜ職住近接が必要なのか。行政職員・学生によってその理由は様々でしょう。個別の職住近接施策がただ寄り集まっても、縮小期の多摩の魅力は向上しません。

このワークショップでは、まず各参加者の課題意識を確認します。その上で、職住近接に必要な、暮らしやすく、働きやすく、商いやすいという三つの条件を実現するアイデアを結びつけて、一つのシナリオを企画したいと考えています。

<本テーマの政策提言>

- ①職住近接は、各市、部局によって課題の理解が異なります。その差を事実として共有します。
- ②共有されたイメージを基に多摩地域の資源と強みを抽出し、シナリオとその簡単な詳細を、基本構想レベルで提案します。

<事前課題>

自分が勤める自治体（職員）、自分が通う大学のある自治体（学生）について、①職住近接がなぜ必要と考えるのか、②職住近接を実現する上での課題は何か、の2点を答えられるようにまとめてきてください。

ファシリテーター

多摩大学 経営情報学部准教授・学長室長 中庭 光彦

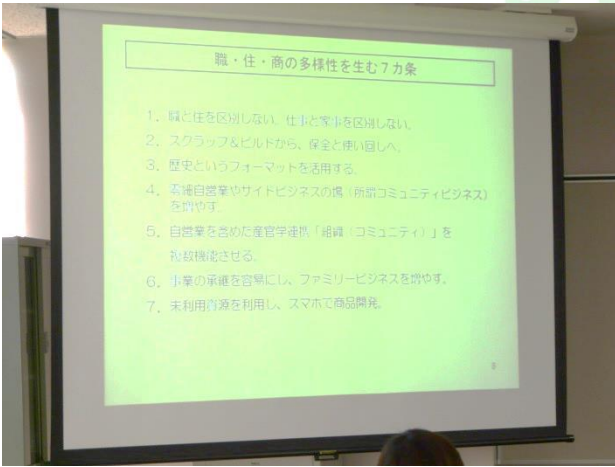
メンバー

小金井市	企画財政部情報システム課	辻 里恵子
立川市	福祉保健部生活福祉課	石崎 和紀
多摩市	健康福祉部福祉総務課	原田 正樹
八王子市	都市戦略部都市戦略課	三谷 清人
日野市	健康福祉部生活福祉課	藤田 林太郎
福生市	生活環境部環境課	松原 朝範
首都大学東京	都市教養学部経営学系	今井 裕一
多摩大学	経営情報学部	小菅 慧
中央大学	商学部	大沼 勇介
中央大学	商学部	鈴木 健斗

司会進行

福生市 企画財政部企画調整課 田村 満利

Photograph



ワークショップ 2

テーマ：「新しいコミュニティとビジネスのつながり」

事前課題（課題B）

<シラバス>

少子高齢化、都心回帰、リノベーション重点地区の東エリアへの移動、リニアモーターカーの開通など多摩地区を取り巻く環境は縮小を予兆させるものばかりです。ベッドタウンの役割は依然として重要ですが、その限界も容易に想像できます。住めば都だとしても田舎ほどの愛着は生まれませんし、地域の連帯も希薄です。子供達の多くは可能であれば「都心で働き、住みたい」と思うでしょう。

しかし、多摩地区は高度な技術を保有する中小企業が集積する地域であり、産業クラスターの活動においても高い成果を上げています。しかも、帝国データバンクの調査によれば、2002年～2011年の10年間の累計では、多摩地区は456社の転入超過です。

これを活かさない手はありませんが、企業の数が増えるだけでは多摩の明るい未来は展望できません。企業が地域にしっかり根付き、その結果として居住者から愛され、かつ誇りに思われるようになることが重要です。企業集積地にありがちな殺伐とした印象を与えないようにするには、企業もコミュニティの一員であることを意識しなければなりません。

そのためには地域間の連携（棲み分けによる相乗効果、目指すはTAMA UNIONか？）を活かしながらビジネスの場としての魅力を高めるとともに、企業と生活者のつながりを築くことで新しいコミュニティが形成されるような仕掛けが必要です。

このワークショップでは、「働いてよし、住んでよし」という視点から目指すべき方向性と具体的な施策案を議論していきたいと思います。

<本テーマの政策提言>

①これまでに蓄積された資源を活かす（円滑な事業承継）、②新たな資源を導入する（新規開業の促進）、③産学官金連携をより有効に活用する（人的交流、ビジネスマッチング、新規ビジネスの創出）、④コミュニティとのつながりを築く（地域人材の育成と雇用、地域への商品・サービスの供給、利益の地域還元）、⑤地域の棲み分けと相互補完を意識する（地域ごとの強みを活かした選択と集中、オール多摩を意識した経済機能の共有化、地域間での資源の再配分と所得再分配）という5つの視点から多摩地区が目指すべき方向性を提言する。

コミュニティとのつながりという視点では、社会的企業（Social Enterprise）その担い手である社会的企業家（Social Entrepreneurship）の可能性についても議論を深め、多摩地区の活性化に果たすべき役割を提言する。

さらに、そうした方向性を実現するための課題を検討し、施策の重点項目を提示する（中期的には既存インフラのリノベーション、交通インフラの整備、金融・財政面の手当て、人材育成など、長期的には多摩連合へ向けた統合ビジョン）。

<課題内容>

参加当日までに当該担当地域の現状把握を行ったうえで、各自が考えるビジョンを描いて下さい（実現可能性を踏まえることが重要だとしても、明るく（多摩と無縁の人が働き、かつ住んでみたく）なるような夢物語的な要素をふんだんに織り込んで下さい）。

現状把握に関しては、基本的な経済統計というまでもありませんが、産業連関表、地域際収支などを活用して産出/投入や域外との経常取引・資本取引の特徴を理解するとともにSWOT分析（強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）を評価する手法）などを活用するように心がけて下さい。

選択と集中（地域のイメージを先行するという意味）を行うとすれば、どのようなコンセプトに立ったビジネス戦略を構築するべきかイメージして下さい。例えば、イノベーションパーク、カルチャー&エンターテインメント発信基地、アート&デザインセンター、エコビレッジなど。

ファシリテーター

中央大学	商学部教授	根本 忠宣
------	-------	-------

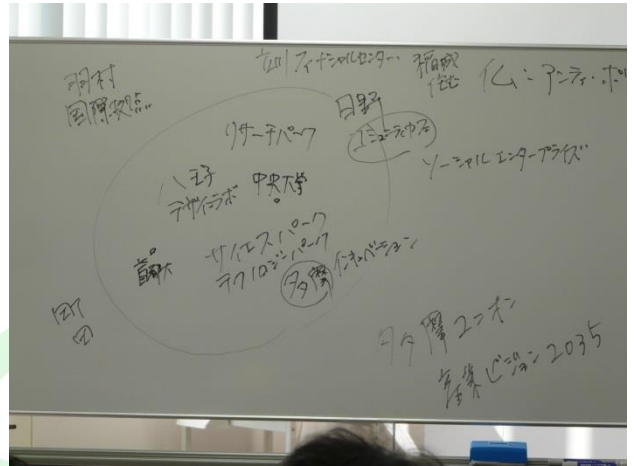
メンバー

稲城市	生活環境部経済課商工観光係	横山 琢也
多摩市	市民経済部課税課	藤田 一貴
八王子市	都市計画部土地利用計画課	小松 匠
羽村市	産業環境部産業課	平田 歩
日野市	まちづくり部産業振興課	服部 文哉
町田市	建設部道路整備課	奥山 航
首都大学東京	都市教養学部経営学系	ゲン トゥアン ナム
中央大学	商学部	田中 恒平
中央大学	商学部	杉山 健二
中央大学	商学部	井上 貴之

司会進行

八王子市	市民活動推進部学園都市文化課	天野 憲一
------	----------------	-------

Photograph



ワークショップ 3

テーマ：「少子高齢化社会における商店街の役割」

事前課題（課題B）

<シラバス>

サブテーマ「地域のインターネット・ショッピング成功法」

地域の商店街が衰退を続ける現在、その打開策として分散する地域商店を集めて、インターネット・ショッピングを始める事例がある。しかし、いずれも加盟店数と会員消費者数が伸び悩み、消費者の買物手段の一部として定着するまでに至らない。消費者の大型店への買物出向や大手インターネット通販の利用が定着する中で、地域商業活性化としてインターネット・ショッピング事業は有効なのか。

<本テーマの政策提言>

- ①インターネット・ショッピング事業を成功に導く方策を提案する
- ②限られた資源の中で有効な実現策を提案する

<課題内容>

東京都羽村市商工会運営「はむらe市場」の活性化についてWebサイトと各種条件情報を収集・分析して、次の課題について有効な提案を実現可能性を踏まえて提言しなさい。①事業のターゲットと戦略の方針 ②加盟店と消費者会員の増加策 ③注文件数の増加策と具体的な運営方法の改善策

ファシリテーター

明星大学 経営学部准教授 片野 浩一

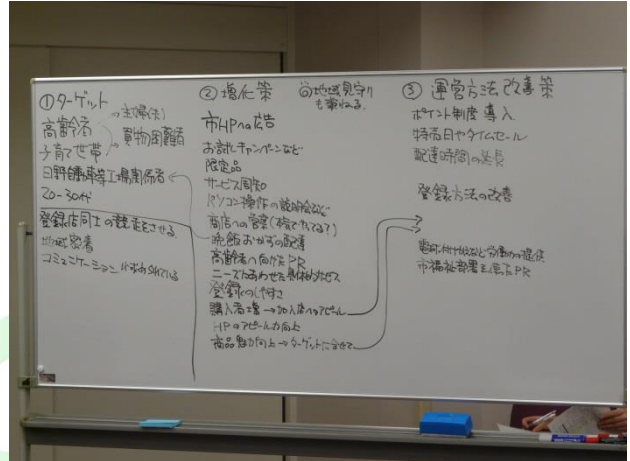
メンバー

稲城市	企画部企画政策課企画政策係	田島 由里子
小金井市	市民部市民課	藤野 香織
立川市	産業文化部産業振興課	鈴木 啓史
羽村市	財務部課税課資産税係	小作 聡一
福生市	企画財政部情報システム課	川村 道治
町田市	政策経営部企画財政課	姫島 友子
首都大学東京	都市教養学部経営学系	佐藤 誠
中央大学	商学部	鶴岡 達也
中央大学	商学部	関野 尊正
明星大学	経営学部	幸治 亜由美

司会進行

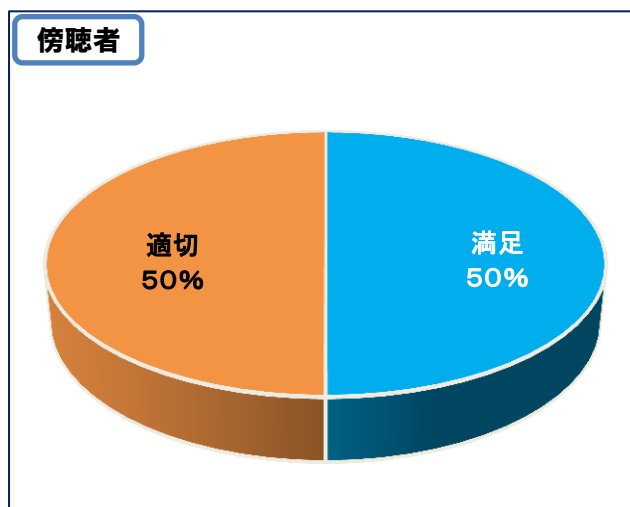
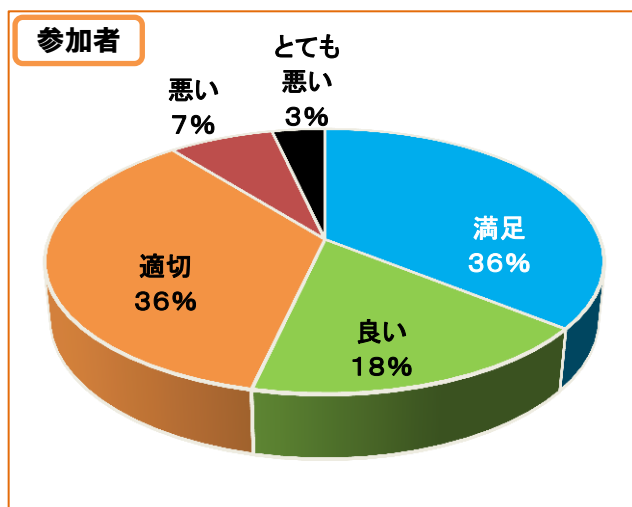
立川市 総合政策部企画政策課 小林 直弘

Photograph



第1部 アンケート

【ワークショップ テーマ】



★参加者感想（学生）

- ・初めて多摩のことを考える機会を得られた（20代男性）
- ・大変勉強になりました。ぜひ繋がりたいと思います（20代男性）

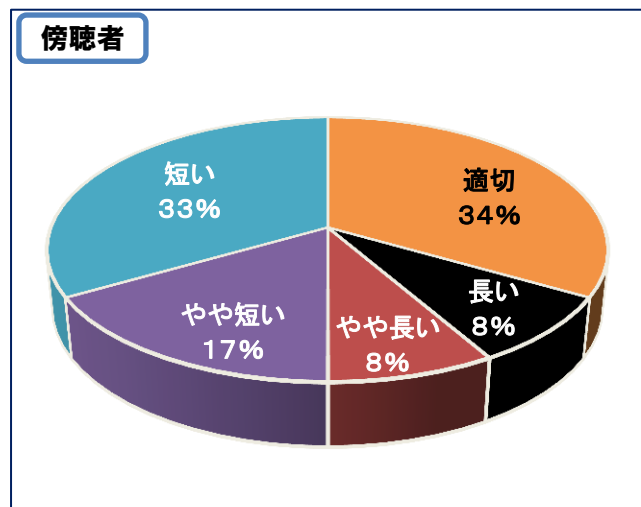
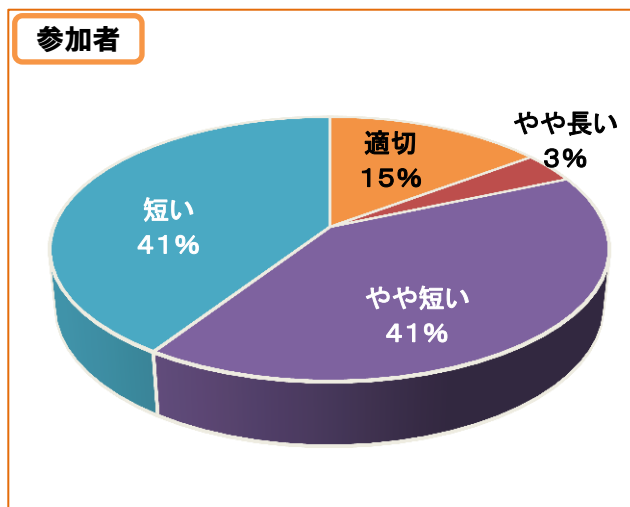
★参加者感想（行政職員）

- ・多摩地域の人口減少を軸に産業やライフスタイルなど色々な方面の意見が聴けて勉強になった（20代男性）
- ・なじみ無い分野だったので不安だったがファシリテーターである根本先生の進行で非常に実のあるものになった（20代男性）
- ・普段は自分の自治体の中で物事を考えるばかりだったが、多摩という広域な連携を意識した話し合いをすることができ、他自治体や学生の方の意見を聴くことができ、長期的なビジョンで話し合うことができて良い経験になった（20代男性）
- ・日常の業務と異なる分野だったので、テーマ自体がとても新鮮でした（20代男性）
- ・テーマが具体的であったため検討しやすかった反面、実際の状況や既存事業に至った経緯が分からず、現実性が少ない内容になってしまったように思う。また行政職員であることもあり、利益を最優先させる組織の事業改善というテーマに重く感じました（30代男性）
- ・新たな視点、多様性をメインとした職住近接について考える機会となり非常に良かったです。まだまだ議論をしたかったので、もう少し時間が欲しかったです（30代男性）
- ・普段の仕事では考えないテーマだったので、久々に大学のゼミの様な感覚で楽しく取り組むことができた（30代女性）

★傍聴者感想（学生）

- ・実施方法もテーマも分かりやすく、考えがいもあったのでとても良かった（20代女性）
- ・就職は公務員を考えている者にとって、どのテーマも魅力あるものでした。次回機会があれば他のテーマに参加してみたいと感じました（20代女性）

【ワークショップ 討論時間】



★参加者感想（学生）

- 時間が短く感じました（20代男性）
- 発表作成の時間を予め聞きたかった（20代男性）

★参加者感想（行政職員）

- 政策討論時間が短く、時間に追われたという印象が最も大きい。中庭准教授が職住近接は奥が深いと仰っていましたが、その深淵の一部でも触れられたのだろうかと思いました（20代男性）
- あと1日欲しかった（20代男性）
- 討論時間が短く、十分に中身を詰められなかったことが残念でした（20代女性）
- テーマ「はむらe市場」の抱える問題が多すぎて、今回のスケジュールで扱うには不適切であるように感じた。また時間の割に人数が多く、一人ひとりの意見を詳しく聞くことができなかったのが残念であった（20代女性）
- 様々な自治体の様々な職種の方が、それぞれの経験と専門から意見を出され勉強になった。討論時間は短い気もするが、本気なら2~3日かかるため、ここはエッセンスや考え方を持ち帰る位置づけで良い（30代男性）

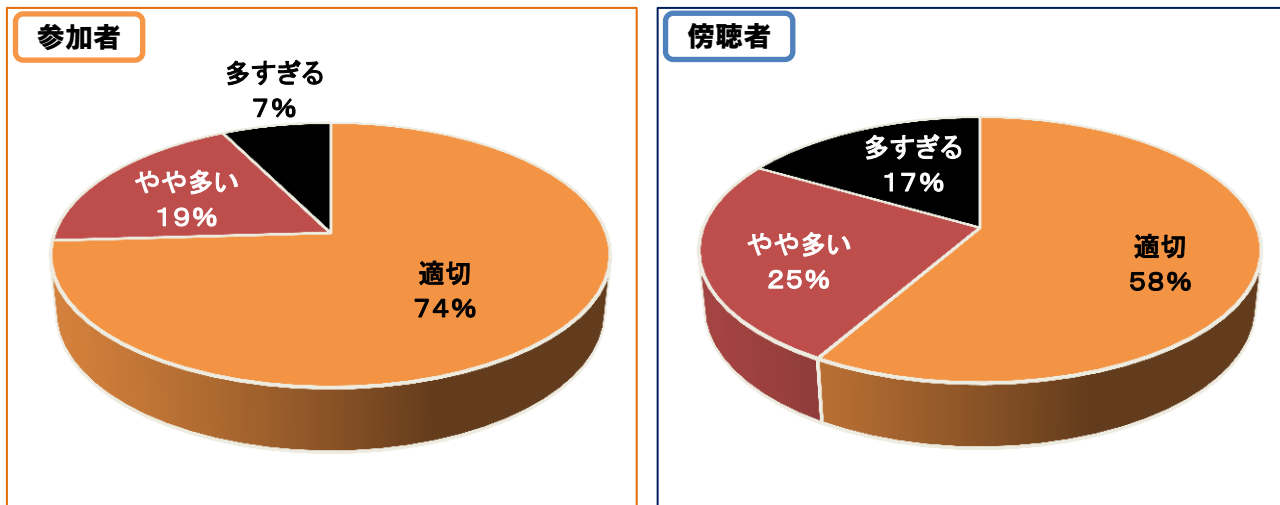
★傍聴者感想（行政職員）

- 自治体若手職員、学生とも活発な意見があって、とても刺激を受けた。ただ政策討論時間が短いと思いました（20代男子）
- 数日間の検討を経て提言すると良い（20代男性）

★傍聴者感想（企業・団体職員）

- 議論の時間がもっとあれば良かった（30代女性）
- 参加者同士が意見交換、議論する時間が短いと感じた（20代男性）

【ワークショップ 人数・構成】



★参加者感想（学生）

- ・実際に自治体の方と意見交換や共有できたのは非常に貴重な経験だった（20代男性）
- ・難しかったです。皆が何について話しているのか、その話がどう政策に結びつくのか、わからないまま進んでいきました。その結果、重要な部分が抜け落ちる、話し合った内容が反映されない等、まさに「会議の失敗とはこういうことだ」といった答えを見つけた気がします。こうして駄目な政策が通って行くのか、とも思いました（20代男性）
- ・行政の方々が自分の働く市に対し熱い想いを持っているのが伝わり刺激になりました（20代男性）
- ・多摩地域の自治体職員と意見交換できたことは非常に有意義な時間となりました。しかしディスカッションについていけなくなってしまう場面もあり、最後までしっかりした意見を表明できなかったことが悔やまれます。今後この機会があればしっかり参加できるように頑張ります（20代男性）
- ・市役所の方の多摩地域へのアイデア、考えを聴くことができ有意義だった（20代男性）

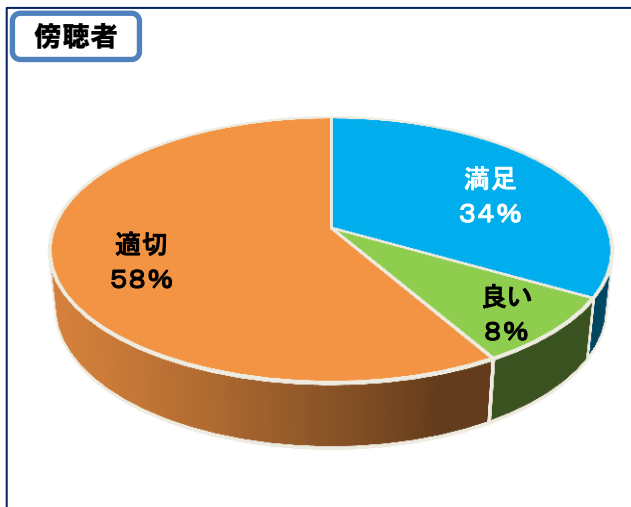
★参加者感想（行政職員）

- ・全員が議論に参加していたか疑問が残りました（20代男性）
- ・他市の職員、学生の意見を聴けて良い刺激になった（20代男性）
- ・他市、学生の自由活発な意見を聴きつつ、有意義な討論を行えた。町田として多摩へどう関わり有効性を見出すかは課題であり、その点をもっと詰めたかった。市同士の役割分担が必要と考え、それを実現できる都市国家ができればと思う（20代男性）
- ・10名で短時間のうちにテーマをまとめるのは大変でした（30代男性）

★傍聴者感想（行政職員）

- ・人数は4～5人が活発な議論を行えるのではないかと（20代男性）
- ・職員と学生の割合を1：1にした方が良い。職員は若者の声を聴きたいと考えている（20代男性）
- ・既存事業をテーマに活性化について議論していたが発言者が限定的でありファシリテーターの先生の役割があまりなされていなかったように感じ、まとめるのに時間がかかっていた。初めにワークショップの手法についてレクチャーが必要（40代男性）

【ワークショップ 討論内容】



★参加者感想（学生）

- 自分だけでは出ない意見が次々と出て、さらに意見に対するぶつかる意見が出て、話が深まる様が大変面白かった（20代女性）
- 個々様々な考え方、改善案は出たがまとめることが非常に難しいように感じた。議論の流れや展開が早く、自分の中でうまくまとめられず議論に参加できなかった。相手に言いたいことを伝えられるように自分の話を咀嚼解釈し、伝える力は必要だと痛感した（20代男性）

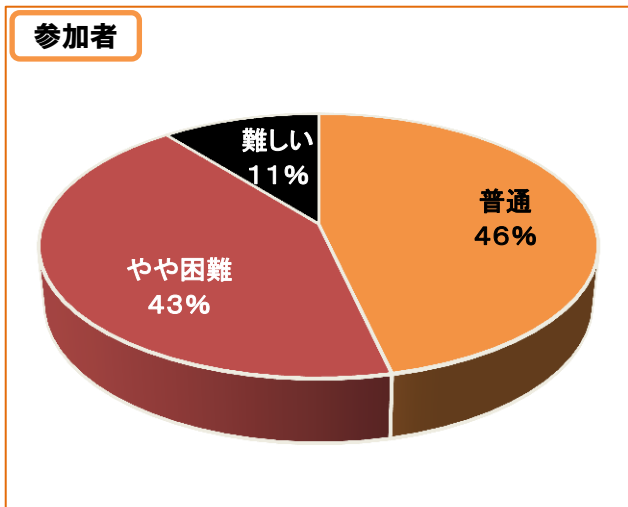
★参加者感想（行政職員）

- ファシリテータの先生が時間の面で議論を方向付けされており良かったのですが、議論の自主性や自由度はやや損なわれたかもしれません（20代男性）
- 実在する商店街の具体的販売手法について、他の自治体職員が専門外の中で実現可能性の高い議論を進めるには相当量の勉強が必要だと感じた。商店街担当者を中心に議論するとより具体的政策案を提案できるのではと感じた（20代男性）
- イベント性あるワークショップとして時間は適切であったが、議論を実現に向けて進めるためには時間は足りない。1回で終わらせるのはもったいないので複数回プロジェクトチームを作り検討すべきと思います。全ての議論を継続するのではなく、本日のワークショップから継続プロジェクトを選定すべきと思います（30代女性）

★傍聴者感想（行政職員）

- 自由な意見が多く、これまで客観的に討論を聞く機会がなかったので良い時間だった（20代男性）
- 「政策として」という視点が弱いように感じた（20代男性）
- 活発な議論が行われて面白かったが、少子高齢化における商店街の役割からは随分離れていたように感じる（20代男性）
- 大変面白いワークショップで業務の参考になった。先生が率先して動くことで非常に盛り上がったので面白かった。留学生が積極的だったのが聞いていて面白かった（30代男性）

【ワークショップ 事前課題】



★参加者感想（学生）

- 事前課題が課され、実際に課題を基に政策提言を行う時、参加者の色々な意見・提案が出て、短い時間でしたが、まとまった良いワークショップになった（20代男性）

★傍聴者感想（行政職員）

- 事前課題の消化度合によるが、ワークショップへのモチベーションが各人に大きく差があったように感じた（30代男性）



第2部

基調講演



network TAMA

第2部 基調講演

主催者挨拶

公益社団法人 学術・文化・産業 ネットワーク多摩
会長 小川 哲生（明星大学 学長）



皆さんこんにちは。本日は多くの市長の方、職員の方にお忙しい中、おいでいただきましてありがとうございます。私達、ネットワーク多摩は市町村との連携事業として、本日をお借りしてこの政策スクールを開催します。

言うまでもなく多摩地区には多くの大学と行政、企業があり、多摩地域の活性化・再生のために連携しながら、お互いの持っている資源・能力を出し合って、より良い地域を作っていきたい、そういう願いを持っています。

これより前日野市長の馬場さんに講演をお願いします。先程、伺いました所、甲州街道沿いで代々、酒屋を営んでおられまして、酒屋から市長になり、色々ご苦労もおありだったそうです。

講演の題名は「多摩の円熟期を明るく生きる」です。この事業は「明るく、縮む？多摩」ですが、“縮む”ということはネガティブな考えのように映りますが、よりダイレクトに響くだろうと思っております。私達は多摩地区に住み、多摩地区の住民のために、多摩地区に通う学生のために仕事をしていますが、そこにはノウハウやスキルなどアイデアがたくさんあります。何よりも私達はここに住むことに誇りを持って、この地区を愛していないとここまでの発展は難しかったのではないのでしょうか。そういう意味では馬場前日野市長から豊かな話を伺えるのではないかと期待しています。

この時間が貴重な時間になることを祈念してご挨拶とさせていただきます。それでは馬場前市長、宜しくお願いします。

基調講演

「多摩の円熟期を明るく生きる」

馬場 弘融（前 日野市長）



こんにちは。ご紹介をいただきました今年4月末まで日野市長を務めていました馬場弘融と申します。漢字が難しく「ひろみち」と読める人は一人もいないと思いますが、名前を憶えていただければありがたいです。

午前中に3グループを拝聴させていただきましたが、久々に精緻な学問の世界と行政が携わっているずぼらとは言いませんが、大雑把な違いを痛感しました。多摩地域には多くの学生がいますが、学生は地元の自治体と関わりをもっと持って、先生や事務職員との交流があって良いと実感しました。

私は退職して半年経ちましたので、ぼけていたり、時代とのずれが出ているかもしれないので、現実感と離れた話をするかもしれませんがご容赦をいただきたいと思います。

只今、小川先生からお話でしたが、細野先生をはじめ、催しをタイムリーに開催していただいたネットワーク多摩の関係者の皆様に敬意を申し上げます。

日野市は市制施行50周年を迎えました。ここにいらっしゃる大坪日野市長の下、式典や国体、記念事業などが終わりました。この会場にいる皆さんにもご支援・ご協力をいただいたと思います。感謝を申し上げます。

さて、今から50年前となると私は立川高校の2～3年生。市長仲間では青梅市の竹内市長と同級生で、同じバスケットボールで釜の飯を食べていた間柄になります。随分昔のことかなと思います。

本日の話題

講演のテーマは「明るく縮む」と書いて“?”が付いています。“縮む”というのが気になりますので、私はあえて円熟期、成熟期ということで、自分の経験を踏まえてお話をさせていただきます。私は話にも目次を必ず付けますが、比較的話をするのが好きなので、レジュメを用意しても途中で他の話になって終わりに行かないことがある。そのため、後はレジュメを見てねということもあるかもしれないが、ご容赦いただきたい。

1点目は自分の生い立ちを話します。初めての人の話を聞く時には、この人がどういう人かを聞かないとわからないことがよくあります。くどいかもしれませんが、生い立ち、人となりについて話をします。2点目は政策論。私なりに16年間市長をやって、多摩とはこういうもの、宝を生かすにはどうするかというのを話しますが、これがメインになります。3点目に私の公務員（自治体職員）論です。リーダーシップのある人をどのように育てるか、それには一人ひとりの心構えをどうしたらよいかを市長の経験から話します。ぜひ宜しくお付き合いください。

1. 私の生い立ち

①日野宿の生まれ

私の生い立ちは昭和19年12月。防空壕に逃げたり隠れたりしていたお腹の大きな母親から生まれました。資料にありますが日野地区生まれで、父親は戦死したため戦争は嫌です。自分がいるのは祖母がいて、しつけが厳しかった。そして地域の皆さんのおかげということをお伝えしたい。

私の家は日野宿の写真があるが、小学校5年生の時に甲州街道を撮ったもので幅は今も変わっていません。我が家で11代続いた扇谷酒店と言います。甲州街道の日野地区で一番古いお店だろうと思います。

②戦争は嫌だ（父の戦死）

昭和35年中学生の頃で、写っているのは私の娘で今40歳ぐらいになり孫が二人います。一人っ子で、20年3月に生まれて、その後父親がロシアの捕虜になり、シベリアに送られる途中で亡くなりましたので私は一人っ子です。これが私の性格に影響しているのだと思います。戦争が嫌だとあえて書いたのは、最近、日本と近隣諸国との関係が心配だからです。自治体職員も若い人達も戦争は絶対にやってはいけないと言っておきたい。父が戦死して私の家の店がどういう状況になり、母親がどういう苦勞をしたかが分かっているので、戦争は絶対にやってはいけないというのが私の原点であり、皆様には伝えていきたいのです。

③祖母のしつけと皆様のおかげ

祖母のしつけと皆様のおかげというのは、家の前に用水が流れおり、みんなで堀り浚いを一緒にやる。我が家は男がいませんからできないので、終わったらお酒やジュースを持って、これを飲んでくださいということで、できない人も何らかの形で関わって地域で堀を守っていました。しつけの中では一人っ子だったので友達を大事に、約束を守り、時間は正確に、自分から友達を切らないように、返事をしっかりすることは随分言われました。これは孫にも言っていますし、ゴルフをやる時も良いなと思っています。「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」は大きな声で相手の目を見て言います。ゴルフの時はキャディさんの目を見て言うとサービスが変わります。

おばあちゃんは近隣でも怖いという評判でした。おかげというのは男手が無い中で酒屋をやることは大変ですが、酒屋は二斗樽などが問屋から来るのですが、飲み口をつけるのに男手が無いと到底できません。問屋が来る時に近所から酒好きな人が来て手伝いをしてくれました。それを子供心に見ていて、いつかこのような方々に「ありがとう」と言いたいなと思いつけていたのが原点でございます。

④浅く広い趣味

「浅く広い」、「浅く」を先に書いたのがポイントです。決してものにはなっていないが、たくさんやったので引き出しがたくさんあります。これが市長として非常に役に立ちました。他の市長との話、大学の先生との話、企業の人達の話ということで、行政の話はできるわけですが、自分の好きなことというのがない政治家が日本には多い。アメリカにはそういう人はいない。これができることでかなり助けられました。一番の趣味は読書ですが、スポーツ、音楽、F1、NBA など浅く広くかじっています。色々な人間関係で役に立ったと思っています。

本は皆さんもかなり読むと思いますが乱読に近いです。物理学、生物学、政治学など様々な分野をかなり読みます。佐藤賢一のフランス革命の最終巻を現在読んでいますが、3つの本を並行して読みます。要するに何かが分かれば良いタイプですから、折り込みを入れて汚していきます。2回読むとこの本に何が書いてあるかを思い出せるようにしています。たくさんの本を読んだことが今の自分を作ったと思っています。その中で思い出すのは、若い頃に読んだ亀井勝一郎の「絶望をしない人はだめだ」と書いてあり、当時は分からなかったが、挫折の時にそうかと思ったことがあって、本は時を超えて自分を助けてくれるというのがあります。

⑤なぜ市長になれたのか

37歳の時に地域の市議会議員だった人が都議会議員になり、日野宿通りで市議会議員がいなくなりました。大学を出て、酒屋だけではもったいないということで出ることになりましたが、やってみると大事な仕事だとわかり、1期目最後に「市長をやりたい」と先輩の前でお願いをしたら「先輩がたくさんいる中でお前が？」ということで袋叩きに遭いまして、それならばいいやと辞めました。しかし、時代が流れて、市長をやらないかという話が来て、平成9年52歳の時に市長になりました。辞めている時の挫折感、なんで一生懸命やっているのに「議員に向かない」など言われるのか、一生懸命しているのに評価をもらえない。1期目は票をたくさんもらいましたが、2期目は当落すれすれでした。1回政治の道に行こうと思って辞めたのは、それなりの挫折であり、40数歳で子供もいるし、店は他人に任せて止めていたので辛い時でしたが、それがあって今があるなと思います。天の時、地の利、人の輪と言いますが、最初の時は天の時ではなかった。2回目の時は家族も反対した。特に娘は止めてと泣いて言いましたが、やってみたら性に合った、時代に合った、それが地の利であり人の輪かなと思います。

⑥市長の役割（決断・みんなの力）

今この会場内にいずれ市長や知事、総理大臣になる人が必ずいると思いますが、何が仕事かと言で言うと「決断」です。説得や話を聞く、説明する、行動するなど様々な仕事はありますが、決断が一番大切。的確な決断を早くする、その連続です。市長を退任して半年、決断から離れた今、市役所に寄りますと、顔から“陰”が取れたと言われます。陰があったのですね。それもその筈です、市民がどうなるか、財政がどうなるかと踏まえて、病院を造ろう、ごみを受け入れようなどと決断がありました。仕事の中で一番大事なものは決断、それが上手くできたので16年間続けられたのだと思います。引退がスムーズにできたのは、ここにいらっしゃる大坪冬彦新市長が職員だったのですが、出ていただいたというのがあり無事に引退できました。

2. 私の政策論～多摩の宝を生かす～

①多摩の歴史に学ぶ

政策論についてです。多摩の宝を生かす。歴史を生かさなくてはいけない。職員の方々は概ね多摩地域はこういう歴史を持っているのは分かると思います。多摩地域で学ぶ学生はあまり知らないと思う。難しい本ではないので、ぜひ勉強してもらいたい。私は歴史が好きですが端的に申しますと多摩は江戸よりも歴史が古いです。大國魂神社が府中にあり、遙か昔からそれなりの人が住んでいた地域です。江戸時代は天領と言ひ、徳川幕府の直轄地、殿がない地域。多摩地域のこれからを考える上で大きな要素になっている。多摩で生まれた、育った人が少ないというが、後から住んでいる人も影響を受けて同じような性格になっている、農民自治の伝統があります。

私達の祖先は佐藤家、幕末の佐藤彦五郎がいて、上佐藤家、下佐藤家が座主。上の組頭、下の組頭がいて、月の半分ずつ交替で地を納めていた。代官は伊豆韮山の江川太郎左衛門だったが町には来ない。結局名主が中心になって納めていた。そのため身分差がない。それが多摩地区の言葉の汚さ、それでも足りていた。それが多摩地域の住民意識に影響を与えています。

城があって殿様がいる地域はヒエラルキーを作りやすいが、多摩は対等なのでまとまるのが難しい。その代り、上手い具合にそれぞれが育て上げられ、連携するととても大きな力を発揮するのが多摩地域です、それが歴史から分かります。

そして多摩川の恵み。玉川上水、浅川、秋川を含め、多摩川に沿って地域ができています。多摩川の恵み、それを絶対に忘れてはいけません。これは大きな素材になります。

多摩信用金庫は分科会でも話が出ていたが、地域の金融機関でとても良い会社。それを評価するのは1巻から全部持っている「多摩のあゆみ」という年4～5回出る本。申し込むと送ってくれるが、どうい地域で歴史を持っていて、どういう人がいるか、多摩地域の学者も含めて書いている。自分に関係がある所がたくさんあるので読んでいただきたい。必ずそれぞれの行政や仕事に役に立つと思います。

②多摩の宝は何か

そういう中で多摩の宝は何か。自然環境はかなりの財産です。午前中の話に無かったと思うが、農業は捨てたものではない。農業は単にモノを生産するだけでなく、田畑のし尿の引き受け手でもあった。地域に潤いを与えるので、農業を本気で考える必要があります。かつて江戸の米蔵や野菜畑であった。交通の利便性、南北はダメだが東西はかなりしっかりしている。都心部からそれほど遠くないので、これがこれから生きてくると思う。モノレール延伸も面白くなると思う。

職住混在という状況で一時はこういうのはダメだと概ね言われて、少し前の区画整理では工業地帯、

商業地帯を分けるのが近代的な地域の在り方だったが、日野はかなり変えた。工場も商店も飲み屋も住まいもある混在した街にした方が良いのではないかと考えています。そして多摩には、ものづくりの里、立派な地域があります。日野市50周年記念誌で日野の企業紹介がある。ニューテクノという5人ぐらいの小さな会社は板金試作業だが、作ってみて、上手くいくと高く売れる、こういう大企業だけではない、キラッと光る面白い会社が多摩にはたくさんある。こういう所に就職すると、多摩地区はもっと良くなると思う。

そして観光資源がたくさんある。高尾山や競馬場もそうかもしれない。日野にはかつて面白い所があった。都心部から近く、平山にはゴルフ場もあった。浅川には鮫陵源という釣堀兼遊園地もあり、日野と八王子の境に競馬場もあり、観光資源として面白い場所がたくさんありました。

多摩人の心意気、これが一番の強みだと思う。文化レベルが昔から高いです。江戸時代も貧しくなかった。明治以後の教育では江戸時代以前はひどい時代で、偉い人が庶民をいじめたと教わったが、多摩地域は裕福、米が取れ、野菜も取れ、川があった。俳句を作ったり、狂歌や短歌を作ったりしている。土方歳三がいい歌を作ったのもそれがある。幕末に市民が鉄砲を横浜まで行って20丁買って、農兵隊を作った。明治維新の時に板垣退助が攻めて来て19丁は見つかったが、1丁は未だ見つかっていませんが、先進的な所が日野だけでなくあった。農民自身の伝統があったので公民意識があります。大衆ではなく、市民感覚は曲者で、公民としての役割を果たしている方が言うてくるのは良いが、その役割を果たしていないのに言うてくるのはダメだと言わないといけない。多摩人の心意気ではあるが、まとまりが無いというのは欠点。なぜ〇〇（場所）の言うことを聴かないといけないのか、というのが職員だけでなく市民の心にある。それは殿がいる地域とは違う。そのため連携を行う時に難しい。大学と行政の人事交流がもっとあっても良いという話が午前中出ていたが、そのような所から垣根を取るが良いと思います。23区は区で独立していますが、結束は固いのでそれは学ばなくてはならない。

③多摩の進むべき道

一つは江戸時代260年に学ぶ。以前の教育は江戸時代以前を古いとされていた。良いものがたくさんあったが明治以後切ってしまった、それを取り戻したいと考えています。日本は江戸期に殆ど完成している。平和、防災、庶民文化、学芸技術、労働時間の短さなどは勉強してほしい。飲み屋が江戸で流行ったのは、なぜ職人が飲みに行けたかということ、労働時間が短かったから。役割分担もできていた良い時代であったことを我々は忘れてはいけない。そして循環社会。し尿処理も進んでいた。ゆとり、役割意識がしっかり徹底していた。

江戸の街並みは随分壊れたが、とてもきれいだった。都庁に当時の写真がある。明治以後壊したというのがある。庭師の職業も江戸から。もっと江戸の歴史に学んでも良いと思う。

ワークショップに商店街のグループがあったが、小商いという言葉がある。全てがスーパーでないといけないのか。小さいものを大事にするのも必要、育てることも必要。

奉仕とビジネスの兼ね合い、ビジネスは徹底的に儲けないと、というのが今風だが、程々に儲ける、奉仕するというのも江戸から学べる。スローライフ、多摩地域に住む人として歩ける範囲を採り上げて良いと思います。祭の効用について、平田オリザが全国市長会で良い話をしていました。地震の復興で人が集まったのは地域のお祭り・神事である、これを忘れてはいけない。

ビジョンを50年100年で持つこと。近視眼的になりすぎると今の時代はダメだと思う。自分の孫の世代がどうなるかを考えなくてはならない。農業とハイテク産業、アニメーションの文化は多摩地区の大きな財産になると思う。交通の便が良いので流通拠点としても面白いと思う。そしてあえて言いま

すが飛行場。横田飛行場、立川飛行場、調布飛行場、横田はあまり使われていない。鶴が降りる場所として飛行場は最適と言われますが、あれだけのものが、あの場所にあって事故も無い。あの場所の可能性はかなり大きい。モノレールはそこを中心に作られている。将来的に多摩の立派な飛行場として考えてもよいのではないか。誰かが意見を出さないと物事進まないのですが、可能性を日本人は殺している。調布は地元のご理解で夜間飛行ができるようになった。

「多摩はひとつなり」日の出町の町長がかつて言った言葉。ごみを一手に引き受けてくれましたが、だから協力しろということで協力し合っている。ごみだけでなく、福祉、文化、スポーツ、ハード、ソフトも職員意識も規律心が強い自治体職員や市民が多いですが、みんなで乗り越えて一つになって何かをやるというのが必要かと思う。私は「みんな」という言葉が大好きだが、みんなの力を結集しようと言いたい。

3. 私の公務員論（自治体職員論）

リーダーとしての公務員論。生き方論でもあり、リーダーシップ論でもあります。これはあえてお伝えします。

「出されたケーキはおいしく食べよ」行政ではそのケーキが嫌い、他の物（者）に変えて、と言う人が多い。出された目の前の仕事は「はい。わかりました。」とやらないといけない。「おいしかったですよ！」と返せば、出した方も嬉しい。どんなものでも出されたらおいしく食べなさい。

「多くの人に会う」。最近の若い人は自分と合わないと思う、避ける。できるだけ多くの人と会う。頭に来る人と会うのが成長の秘訣。聞くことの力。鷲田清一という京都大学から大阪大学の学長になった方の本に「人の話を聞くことがとても大事」と書かれている。阪神淡路大震災の後で、被災者の話を聞いた。辛くて聞いていられないが黙って聞いている、それで相手が癒される。公務員は自分の仕事を知っているので、訳のわからないことを言う人が来ると「こうだ」「だめだ」と言ってしまう。10分位聞くべき。その後に「難しいよ」と言うといい。

宇野千代という女性作家が晩年、人生相談を色々な新聞でやった。相手の言ったことの語尾を繰り返せと言っている。「～～嫌なんだから」と言ったら、「嫌なんですね」と言う。それを繰り返すと、自分のことを聴いてくれているとなる。これから仕事をする時にやってみると良いですよ。市長になってからこれをやった。市長相談というのがあり、凄いい剣幕で20分話してくる。本気で聴くというのが大事で、最後の語尾を繰り返すのはとても大事。

本はたくさん読んでほしい。特に古典、歴史、有名な物語は読んでおいたほうが良い。人間の深みが感じられる人には人は敬意を払います。登場人物の名前が出たりすると相手はウツと思う。

引き出しは多く持つ。芸は身を助けます。色々な引き出しを持っていて、当意即妙でなくても出せると良い文章が書けたり、良い挨拶になったりします。

違った視点ですがルーティーン。決まりきったことをどうこなすかはとても大事。ルーティーンの語源はフィギュアスケートで昔、種目があった。8の字を書く。同じ線の上を行ったかで点数が付く。これがとても大事で、私は朝起きてから30分を大事にしている。自分の1日が始まるということで、昔、FM放送で朝目覚めた時に「これからの人生の最初の時だと思え」と言っていた。100歳になられた日野原重明先生が「習慣に早く配慮した人は人生の魅力が大きい」と言っている。「いつかきっと」というのも大事、行政は特に動かない。「継続は力なり」と言うが、勝海舟は「10年の上り下りが我慢できる人は大物だ」と言っている。いつかきっとこうなると思い続ける、これを身に付けてもらいたい。

マスコミへの対応。現代社会の中で一番強い武器を持っている存在だろうと思います。各市長さんもマスコミがどう書くかというのは戦々恐々だと思う。辛くても言うべきことは言う必要がある。民主主義は誰でも王様だが、誰でも召使です。そのことを誰も言わない。権利と責任、発言と実践、マスコミには明確に自分の考えを述べると上手くいくと思います。

あとはチャレンジ、公務員が一番できないこと。なぜなら安定しているから。イチローが日本にいた頃の打率は3割。100点を求めてはいけない。それを求めるために法律や制度を作るが、そのうちに時代が先に行ってしまう。多少間違ってもよいからチャレンジしてほしい。

激変の時代が続いている。地震、放射能の問題と、応仁の乱以来の変化が来るのではないかという予感がしている。しかし、こんなに面白い時代はない。頑張っただけ時代に合わせると、二段跳び、三段跳びで大きな仕事ができるようになる。職員、学生の一人ひとりに頼るのではなく、自分の力が出せるし、試される時代が来ていると考えている。カチンとくるような部下を使うべき、そのような人を絶対に使いなさい、あなたが嫌いだからではない。一生懸命考えて言っている、それを使ってほしい。

忙しい人ほど使いなさい。暇な人は使ってはいけない、忙しい人ほど役に立ちます、私の経験から言ってそう。ああだこうだ言うが絶対にやってくれる。エリートをどれだけ作れるか、なれるか、本気でなろうとするような職員がどれだけいるかがこれからの国の将来を決めると思う。

4. まとめ ～寛容と連携～

まとめになります。マイナス、縮小、低成長、ところがそれは円熟期。江戸時代の話をしたが260年続中で、色々な学芸、文化が発展して、我々が持っている庶民芸能は江戸時代に作られている。かつての歴史では停滞期、進化していないと言われるが、庶民文化はとても進んだ時。それと同じ時代が今は来ていると思ったほうがよい。これからの多摩はとても面白い、円熟期です。21世紀文明がどこに行くのかという実験が必ずできると思います。それに耐えうる優れた住民や公務員が各自治体にいると思います。実がなる、量から質、スローライフ、その意味で江戸時代に庶民がどうあったのか再評価をして、最近では昭和39年東京オリンピックの時に持っていた東京のパワーを思い返すと明るかったなと思う。一生懸命上を目指していたあの頃の活気を思い出してもらいたい。次の東京オリンピックが決まり新たな目標ができた。多摩の歴史「多摩のあゆみ」は図書館にあるので、多摩がどういう地域か歴史文化を持っているかを紐解いて、そこで働く楽しさを思い出してもらいたい。それには一人ひとりの声の持ち様が大切。人様の生き方を寛容し、受け入れることができない人が多い。言論人の中で多い。それぞれが自由に発言をして良い。アメリカ人はもの凄い激論をやった後に、必ずパーティーがあって「君のあの論は良かった」とやっている。日本人は行わないが、寛容の心を持つということに身に着けてほしい。そして現代人は言わなくなったが、人には必ず役割がある。それぞれ人には性格があるように、その人はこれが一番だというのが必ずある。いろんな役割の人が固まってはいけないので、連携するというのが大事になる。50年、100年のスパンでものを考えてもらいたい。それを言うと笑う人もいるが香港返還は99年だった。イギリスは本当に返した。そのくらいのロングスパンで物考えることができる人が日本に出てくると日本も多摩地域も発展すると思う。もっとロングスパンということを考えて円熟期を過ごしてもらいたい。

職員、市民、学生、地域に関係する“みんな”ひたむきに新しい時代に先駆けてもらいたい。今日の発表の中から新しい多摩モデルができて、それがいつの日にか日本のモデルになると良いと思う。

多摩地区はこれから品格というのを凄く大事にしたらどうかと思います。品格ある街並み、品格ある行政、品格ある生き方、これをやると面白いと思う。

最後に、とはいえ難しい時代。変化著しいし、財政的にもますます苦しくなる。こういう時にこそ、真のエリートが必要かと思う。できれば自分はこの分野でエリートになりたいという気概を持ってもらいたい。引退した市長としてこれからの多摩地区の大いなる希望を持って余生を過ごしていきたい。

お集まりの皆さんの更なるご活躍、ご発展に心からご期待申し上げて、私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

Q. 東京都総務局職員

前市長の深い人生経験から、非常に参考になりました。街を作るのは人である。エリートをいかに育てるかという話だったが、エリートとはどのようなものをイメージしているか。

A. 馬場 弘融氏

まずここぞという時に即決断ができること。逃げない。失敗した時こそ前が出る。そしてごめんねと言える人。辛いですよ、でも最初に言った人が勝ち。ぐずぐずしている人は大目玉を後で喰らうのが一般的。

次に歴史認識。今の自分の立ち位置は時間軸の中で、行政の中でどこにいるかを捉えておく。自分がどこに立っているかを見られる人、これがとても大事。最後に辛いことでも言うべきは言わなくてはいけない、言うべき時に。1回逃げるといつも逃げることになる。

Q. 日野市健康福祉部職員

「出されたケーキはおいしく食べろ」と言うことですが一番食べ応えがあったケーキは何か。

A. 馬場 弘融氏

一番食べ応えというか、思ったのは、市長になりたいと手を挙げた時に袋叩きにあった。これはとても良い味だった。それを食べないでケンカして出馬するというのもありだった。実は、同級生がそこでは選ばれた。後になって、その同級生は私の選挙で応援してくれたので今だから言えるが、私を追い落として伸びていくということでなんだと思った。政治の世界ではだめだと思った。辞めたが、自分のやるべき他の業務はあると思って、そこに居続けた。そのため辛かった。

私の代わりに出た人を応援した。そのため、周りからは裏切るのではないかと見られもした。彼は3回市長選挙に出たが勝てなかった。4回目になって「僕は出ない、君だ」と言われた。そこではケンカをした。それがあって今がある。嫌だから他に行くのではなくそこに居続けて、9年間一緒に味わって今がある。その時に他に就職、他の街に行っていたら今の私はない。とても辛かったがそれを素直に受けた。いつも意気地なしなどと言われた。あんな意気地なしに市長は務まるかとよく言われた。それが一番食べ応えのあったケーキですね。

Q. 中央大学商学部学生

講演で生き方の話をただで勉強になりました。これから社会に出ていくことになるが、これを勉強した方が良い、やっておいた方が良いというのがあれば教えていただきたい。

A. 馬場 弘融氏

慶応大学法学部にいて、さほど勉強したという思いはないが、法律はとても大事。なぜこれをやらないといけないのかという時に、法律はこうですという根拠になる。しかし、そればかりをやっていると融通が利かなくなるとなる。法律の建前と現実困っている市民の間に入る。許容範囲のぎりぎりですら、少しオーバーしてやるのが良いと思う、それが難しい。そういう人は課長を見る時に「この課長が頼りになる」というのは、そういう仕事ができる人。範囲の下でできるというよりは、少し伸ばして、伸びた分は私の責任ですという仕事の仕方が良いかと思う。矛盾しているが法律、条例から少し滲み出る、それが個性になる。困った人を救えなくても良い。話を聞くというのと同じで、公務員が話を聞くと、できなくても相手が満足してくれることがある。自分の範囲から滲み出る方法を覚えると良い。

Q. 立川市職員（多摩信用金庫 派遣中）

共感する所ばかりだったのですが、本を読めということがあった。今まで読んだ本で一番影響があった本、人物などがいたら教えてもらいたい。

A. 馬場 弘融氏

私が市長として一番頼りにしたのは「ローマ人の物語」。ジュリアス・シーザーの上下巻は、ガチガチに影響を受けている。リーダーたるものはどうあるべきかが見事に描いてある。他には宮本武蔵。浪人のころ、又八よりも武蔵の方が力は上、最後までついてくる。最初の頃はだらしがないと思うが、市長経験をした今は又八偉いなと思う。

ドストエフスキーのカラマーゾフの兄弟も途中で終わっているが凄い本。最近では高村薫、もともとスリラー、マックスの山などを書いていたが、途中から変わって政治家の話を書いている。若い頃は、阿部次郎「三太郎の日記」哲学で生き方を教えてくれる。分かりやすい所では森鷗外、島崎藤村「夜明け前」はじっくり読んだ。この中に新選組が出てくる。大菩薩峠にも新選組が出てくる。今は鶴岡出身で佐藤賢一の「フランス革命」を読んでいる。

Q. 羽村市財務部職員

歴史から学ぶことが重要と感じた。歴史上人物で尊敬できる人、その中で仕事に反映されたかをお聞きしたい。

A. 馬場 弘融氏

ジュリアス・シーザー。あの本を読むと前書きにローマのお巡りさん、刑事部長の話があり、『今あの方がいたら、私を100人隊長の一人として下で働きたい』と言っている。日本では織田信長。殺しすぎ、乱暴だし、人の言うことを聞かないが、あの人のスケールは、織田幕府になっていたら、東南アジアを納めていたのではないかと思う。

司会（第2部 ～ 第3部）

多摩市

企画政策部企画課

原島 智子

多摩の成熟期を明るく生きる



前日野市長
馬場 弘融

本日の話題

1. 私の生き立ち
2. 私の政策論
～多摩の宝を生かす～
3. 私の公務員（自治体職員）論
4. まとめ
～寛容と連携～

1. 私の生き立ち

- ① 日野宿の生まれ
- ② 戦争は嫌だ（父の戦死）
- ③ 祖母のしつけと皆様のおかげ

日野宿の写真（昭和30年頃）



酒屋を営んでいた生家



1. 私の生い立ち

- ④ 浅く広い趣味
- ⑤ なぜ市長になれたのか
- ⑥ 市長の役割（決断・みんなの力）

浅く広い趣味



市長就任（初登庁の時）



2. 私の政策論

～多摩の宝を生かす～

① 多摩の歴史に学ぶ

・天領（農民自治の伝統）

・身分差が少ない

・多摩川の恵み

※ たましん「多摩の歩み」

2. 私の政策論

～多摩の宝を生かす～

② 多摩の宝は何か

- ・自然環境
- ・交通の利便性
- ・職住近接（ものづくりの里・三世代近居）
- ・観光資源（高尾山）
- ・多摩人の心意気
（文化レベル・先進・公民意識）

2. 私の政策論

～多摩の宝を生かす～

③ 多摩の進むべき道

- ・江戸時代に学ぶ
- ・50年、100年のビジョンを持つ
- ・多摩はひとつなり
～ゴミだけではない～

3. 私の公務員（自治体職員）論

- ・出されたケーキは美味しく食べよ
- ・多くの人に会え
- ・聴くことの方
- ・本を読め
- ・引き出しは多くもて（芸は身を助ける）



3. 私の公務員（自治体職員）論

- ルーティンを大切に（朝の30分）
- いつかきっと（継続は力なり）
- 緊張と弛緩（ONとOFF）
- マスコミへの対応
- チャレンジせよ



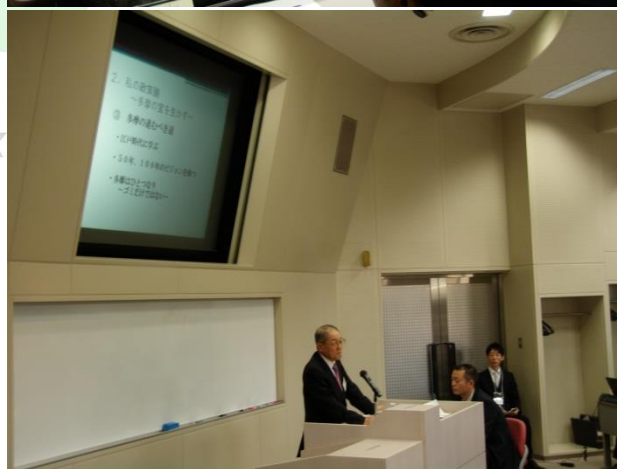
4. まとめ ～寛容と連携～

- マイナスが続くけれど、実は円熟期
- 人様の生き方
- 品格のある街並み
- 勤勉と責任
- 時代を先駆けよ ～多摩モデル～

ご清聴ありがとうございました

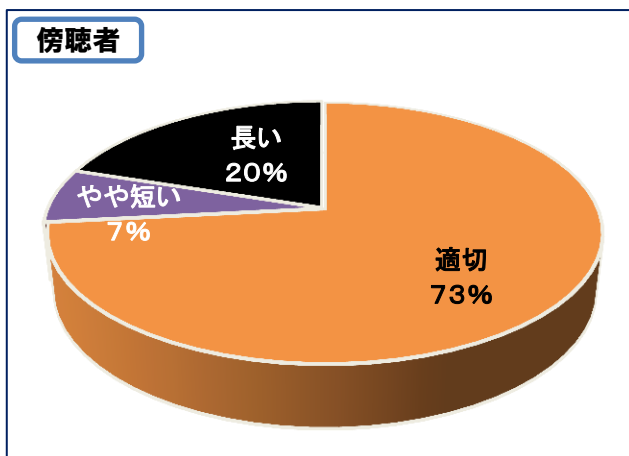
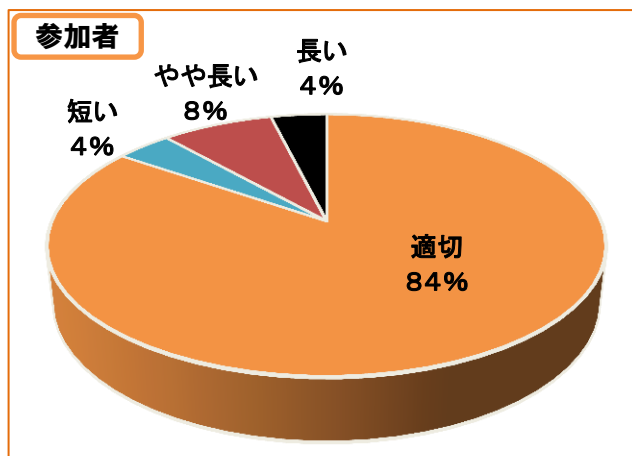


Photograph



第2部 アンケート

【講演時間】

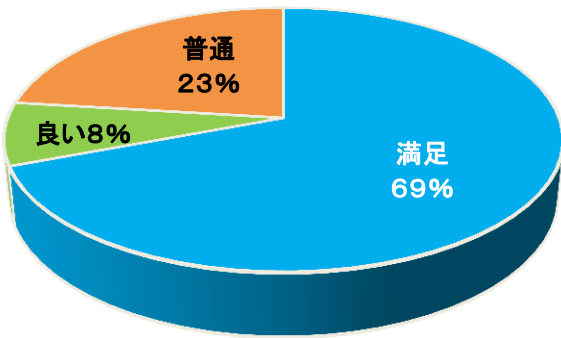


★行政職員感想

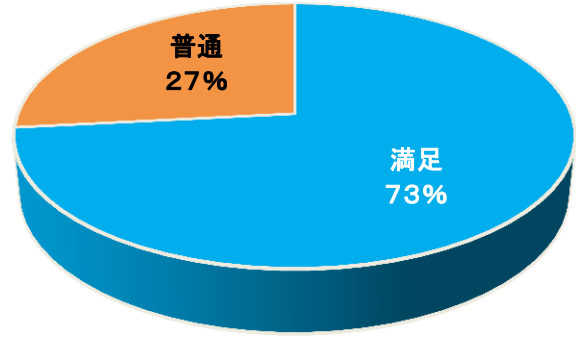
- もっとお話を伺いたかった (20代男性)
- 基調講演を先に行った方が良かったと感じました。とても身になる話で頭が開かれるのでモチベーションを高くして臨むことができますと思います (20代男性)
- 基調講演は全員の目線を合わせるため、開始前でも良かった (30代男性)

【基調講演テーマ、内容】

参加者



傍聴者



★学生感想

- ・自分の周りの環境、そして多摩という歴史から見て、心意気が今も変わらず残っている。そのような中で今やらなければならないことが見えてきた（20代男性）
- ・市長を経験なされている方のお話は心に響きました（20代男性）
- ・現場にいた方の話は良かった（20代男性）
- ・前市長の生い立ちに衝撃を受けました（20代男性）
- ・お話を聴いて自分ももっと学ぶ意欲を持たなければいけないと実感した（20代男性）
- ・前市長の生い立ちから多摩の政策論、また人生の歩み方に至るまでの貴重なお話を聴くことができとても光栄に感じました。先生のおっしゃったことを参考にして今後活かしたい（20代男性）
- ・生き方、考え方など非常に深く、これから先の人生において大変参考にしたい考え方であった。私も引き出しを多く持てるように様々な分野から学んでいきたい（20代男性）
- ・普段聞けないようなお話でしたので、とても勉強になりました。このような本や人からしか得られない「生き方」「考え方」は学問とは別と考えられがちですが、今の学生にはこのような話こそ必要であると感じました（20代男性）
- ・多摩地域のこれからを考える上で歴史を顧みることが大切であるということを知ることができた。また“人と繋がり”“みんな”で創り上げることの重要性を改めて感じました。多くの人と出会い、関係を作るのに浅く広い趣味と人を受け入れる寛容さを持ちたいと思います（20代女性）
- ・エリートとはどのような人なのか、使ってもらえる部下になるためには自分がどんな人間になる必要があるのか、どこを直す必要があるのか、社会に出た時に人にどのように対応するべきかを考えるきっかけとなりました。馬場様のお話をこれから先、活かしていきたい（20代女性）
- ・実際に市長の役職を体験した方が考えるリアルな政策論を聞くことができ参考になりました。また公務員論は公務員という職業に関心のある者にとって更に深く公務員という職業について考える良いきっかけとなりました。本日はありがとうございました（20代女性）

★行政職員感想

- ・馬場前日野市長の歴史背景を把握されたお話はとても説得力があり勉強になりました。地域の歴史を学ぶことがその地域の人を知ることに繋がり、将来の在り方を考える図りになることを学びました。ぜひ実践したいです（20代男性）

- 今後の自治体職員として、歴史認識とエリートになろうとする意識の2点が重要であると感じました（20代男性）
- 歴史、人から学び人生・仕事へ活かしている様を感じた。前市長という経験からリーダーならではの視点、考え方を学ぶことができた（20代男性）
- 特に浅く広くということと法律内で仕事をしつつ、そこからにじみ出る+αの重要性を知ることができた（20代男性）
- 公務員としてどうあるべきか、どう生きて行くか考えさせられた（20代男性）
- 馬場前日野市長の人生論や公務員論を聴くことで、自分が今後どのように公務員として過ごしていけばよいのかを考えるきっかけになり勉強になりました（20代男性）
- 人生の大先輩のアドバイスは、これからの業務に参考できる時間になりました（20代男性）
- 「法律と枠を少しはみ出した行動」は普段どうしても法律違反などを気にしてしまうので、広く解釈するのに抵抗ありましたから、とても参考になりました（20代男性）
- 小手先の技術や近視眼的な話ではなく、公務員というよりも人としてどう生きるか、を人生の大先輩に教えていただいているようで非常に良い経験だった（30代男性）
- 一つの事柄を終えた方の話ということで、学べる部分が多かった。とても本好きでいらっしゃることが質疑からも伝わってきました（30代男性）
- 前日野市長の人間性の魅力に共感しました。今回の話を今後の自分の仕事や生活に役立てていきたいです（30代男性）
- 実際の経験に基づいた内容であったため説得力があり理解もしやすかった。テーマもあらゆる人に関わる内容で大変興味深く盛りだくさんだが簡潔で非常に充実していた（20代女性）
- 馬場前日野市長の貴重な話を聴けて良かったです（30代男性）
- 前日野市長の貴重なお話をお伺いできて良かったです。今後の職務に活かしたい（20代女性）
- 普段お話を聞く機会が無いので、とても興味深かったです（30代女性）
- 馬場前日野市長の深い人生経験からくる貴重なお話を伺って大変勉強になった（20代男性）
- 馬場氏の公務員としてのあるべき姿、リーダーの資質が分かりとても参考になった（20代男性）
- 大変力が入った講演で面白かった。市長としての決断の重要性、エリートの必要性、これからの多摩論等は大変参考になった。何より元トップとして明るい方向性を示していただけなのが昨今の多摩の状況の中で心強かった（30代男性）
- 市長の経験を踏まえた大変参考となる話でした。今後の人生に役立つと思う（30代男性）
- 端的な表現がそれでいて説得力があり引き込まれる。とても素晴らしい講演でした（30代男性）
- 首長の考える自治体職員論について講演いただき、今後の行政マンとしての生活の参考になる（40代男性）
- 馬場前日野市長の生き方、考え方に触れることができ、非常に有意義なものでした（40代男性）
- 大変参考になりました。ありがとうございました（50代男性）
- 市長の役割は決断でありエリートの資質としても決断の重要性を語られていて、非常にためになった。多摩地域全体を意識することが大切だと感じた（50代男性）

★企業・団体職員感想

- 前日野市長の優しさの中に厳しさも感じるお話はとても心に残るものだった。特に多摩のまとまりづらさやエリートの中に興味を持つことができた（30代女性）

第3部

全体会・懇談会



network TAMA

趣旨目的

第1部ワークショップで討論・考案した政策提言を発表する。多摩地域の現役市長、元市長より政策提言に講評をいただく。

話題提供

人口で考える「多摩」の現況

公益社団法人 学術・文化・産業 ネットワーク多摩

専務理事 細野 助博（中央大学 総合政策学部 教授）



3人の先生に9時半から若手職員と学生とで真剣な討議を行ってもらった。この政策スクールは現職市長から忌憚なく意見をいただくものとなっている。この後に懇談会もあるので、親しくお話をしていただきたい。

政策スクールを開催した問題意識を共有したい。資料の人口伸び率の変化は、多摩と神奈川県相模原市を入れた。23区の倍率を考えると1998年に23区と伸び率が同じになった。その後ずっと下降している、これを都心回帰という。人口は需要をつくる、供給を支える。若い人が入ってくると、新しい考えが生まれるので非常に大事になる。

どう円熟期をつくるのか、馬場前日野市長から話をいただいたが、品格のあるそのような人がたくさん向上していく必要があるという話だった。社会増減で市部と区部の増減で、他の地域から来る人は多くない。昭和40年代は毎年30万人口が増えていた。今は都区内と多摩地域での人口の取り合いになっている。2001年まで多摩の方が力は強かったが、それから陣地の取り合いになる。それに負けたのが2005年。どういう形でこれをもう一度盛り返すかを考えていく必要がある。若者人口の都心との比較で15歳から29歳で構成比では1998年にイーブンでそれから減っている。どうやって若者に来てもらうかを考えないといけない。

団塊ジュニアがどこに住んでいるかになる。23区に多く住んでいる。多摩は農業が凄いいという話があった。都内の60%の農地は多摩にある。どう循環型の経済を考えるか、環境、ハイテクと農業を結びつけるのはチャレンジング。クリエイティブということを見ると、情報通信産業がもう少し少ないといけないかなと思うが、23区と比べると構成比で半分ぐらいになる。学術研究構成員などクリエイティブな人を増やす必要もある。そのような産業構成を目指さないといけない。

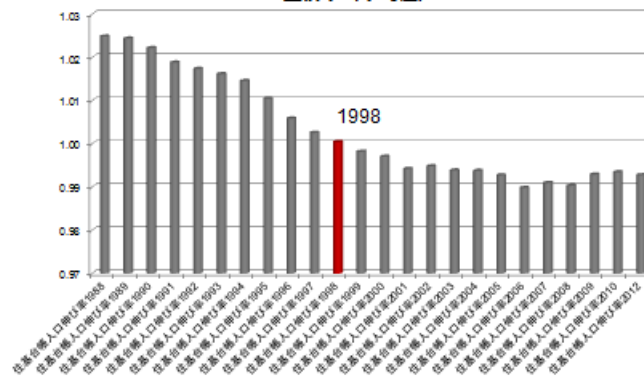
課題がはっきり見えている。どうやって足りないところを伸ばすか、バランスのとれた産業構成にするかというのを共有して、これから3つのグループに政策提言を行っていただく。

人口で考える 「多摩」の現況

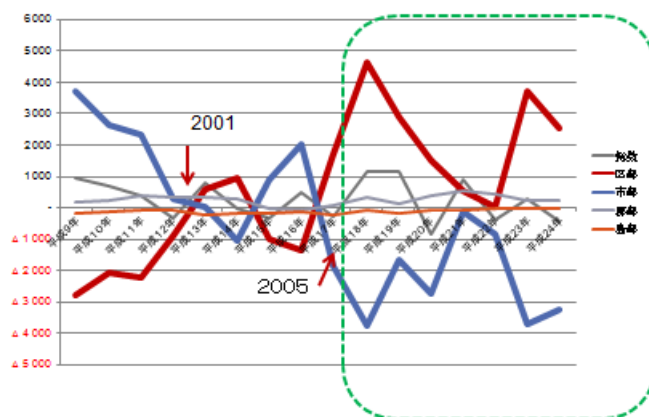
中央大学大学院
公共政策研究科委員長
細野助博

人口伸び率の変化 (多摩相模原/23区)

23区倍率(平均値)



社会増減に見る都内の魅力の変化



ワークショップ1

○テーマ：「“職住近接”から見る多摩の魅力」

政策提言

代表報告：三谷 清人（八王子市 都市戦略部都市戦略課）

職住近接という言葉は、これが凄く良いという人、もう少し職場から離れた所に住みたいという人もいます。ここでは活性化の一つのポイントとして位置付けて話をしたい。

個別の本題に入る前に、職住近接は90年代から自治体の課題として認識されて手を打ってきた。企業誘致、職場と家の時間距離を短くするという事で線路を造るなどを行ってきた。成功したのもそうでないものもあるが、人口が増えていけいけの時代は良かったが、これから人口が減少期に入って、コンパクトになる中、どう模索するかが大切になる。

私達は手段の前の街の在り方、スタイルの在り方を変えていって、職住近接の土台としたいということで話をしたい。

職住近接から連想される言葉として、地域の企業に就職先を求め、子育てしやすい、夫婦揃って、将来のバリアフリー化（コミュニティビジネス）。これまで商売する人は限定されていたが、これからはそうではない、学生が起業してもよい。外国人が地域に入って商売をしてもよい。垣根をとってバリアフリーにしていこう。自然と歴史の街という、多摩の強みで自然が豊かで都心に近いこと。歴史が息づく街であるということ。職住近接の中で街を活性化していくポイントとなる。

現在、多摩地域はどうなっているかを考えると3つある。

まず、住環境に特化した街としてベッドタウンとして発展してきた歴史がある。現在、住む所、都心に働きに行き戻ってくることに特化されている。

次に商業環境が画一化されているのもポイント。雑多な商店街がある所が減っている。デパートが立ち並ぶ街となっている。それ自体が悪いわけではないが、持続性に欠けることがあると考えている。

3つ目に多様なビジネスが成立しにくい。ビジネスは昼に都心に行きというのでは合にくい。多様なビジネスがベッドタウンだと昼間人口が少なく、画一的な複合商業施設があると、ビジネスが成り立つ環境がない。それをどう変えていくかを考えたい。

目指す理想像として、多摩の20年後の話をしたい。

先程から画一的、多様性が無いという現状を述べてきたが、職住近接という言葉、街作りを進める中で、多摩は住環境に特化していけば良い。企業がある所はビジネスディストリクトとしてやれば良いと考えていたが、そうではない。いろいろな人が持つ顔が混在しても良いのではないかと、多様な環境のある街、多様な人間が集まる街、“働く”を考えるとサラリーマンが頭に浮かぶが、実家の家業を継ぐものもある、NPO 法人で働くものもある。いろいろな選択肢を持つというのを教育の話にもなってくるかもしれないが、ハード面、ソフト面というのを考えた。

理想像に向かうための政策提言として、1つ目は多様な職業観の醸成。大企業で働くという職業観ではなく、自営業・副業で地域を活性化するのも良いのではないかと、こののを奨励する。

2つ目は豊かなコミュニティづくり。「コミュニティ」がキーワードで、それぞれの街に、それぞれの売りがある。子育て、学生が活躍しやすい街などそれぞれの中でコミュニティ、人がそれぞれの役割を果たして、一つの集まりの中で色々な生き方を育てていくことができるようになれば良い。都心に通勤して、帰ってきて疲れて、特段地域の活動には参加できないという人も多いと思うが、仕事、地域に関わることでコミュニティを作っていく。

次はビジネスの多様性ということで、コミュニティビジネス、ベンチャービジネスが成り立ちにくい。国立で学生ベンチャーを立ち上げたが圧迫され、行政も支援してくれなかった。そうすると淘汰されてしまう。それを含めて色々なビジネスの在り方もあってもよいのではないか。行政の支援が大きいかもしれないが、それを意識して政策を立てていければと思う。

これらは全く独立したものではない。コミュニティを作るというのは、企業と町会、NPO がやるというのも一つのコミュニティ。子どもが熱を出した、おじいちゃんがいなくなった時にコミュニティの力で解決していくとなれば、働く人も自由に働けるのではないか。そうして解決していければと思う。

講評

多摩市長 阿部 裕行



第1グループの皆さん、ありがとうございました。短時間でまとめるのは大変だったと思う。伺っていて、キーワードは多様性（ダイバーシティ）だと思った。

23区と多摩地域を対比すると、今は職住近接を選ぶ人が多く、多摩から都心に人口が流出していると感じる。しかし、多くのサラリーマンが多摩地域に居住し、長時間かけて都心に通っているように、多摩地域には郊外の魅力がある。特に緑、環境などの魅力をもう一度、多様性という視点で見直していくことが重要である。

今回の発表で多様な職業観の醸成、豊かなコミュニティ作り、ビジネスの多様性の3点の政策提言がなされたが、まだ漠然としている。発表を聞いていて、これから議論を仕掛けていく途中かなと感じた。

これまではサラリーマンが終身雇用を前提として、郊外に土地を求めてくる流れがあった。しかし、現在は終身雇用が前提では無くなってきている。多摩市では「多摩ニュータウンの再生」をテーマとして、東京都、URなどと内部で議論している。その中で、これまでの家の所有を前提として郊外に住み続ける発想から、家を借りるという発想に置き換えることで三多摩の魅力を倍増できるのではないかと議論があった。今回の3点の政策提言は、そうした議論を考える上でヒントになるかと思う。そうした中で多摩の魅力をどう位置付けるかが大切だと思う。

土地の所有は大きな課題の一つで、ビジネスを立ち上げる時にNPOなどは収入が厳しい。これからのビジネスを考える上で、賃金の部分だけでなく、いかに生活を豊かにできるかを考えることが重要である。

今後とも、三多摩の魅力を発信していくため、とんがった議論を期待したい。

ワークショップ1を指導した中庭です。

職住近接について多摩の魅力を考える。ある意味で深いテーマを主催者からいただいた。グループワーク開始当初、10人の職員・学生の参加者に「職住近接」という言葉で、これまでどのような議論をしたことがあるのか尋ねてみた。すると、三谷さんが発表されたように、単に職場と住居の時間距離を近くすれば職住近接が成り立つのだろうかという疑問が生まれた。人口は職を求めて移動する。だから企業を近くに誘致すれば良いという思考に、つい囚われてしまう。実際、自治体職員は、職住近接で時間に余裕のできた住民に、地元の高齢者等のために活動をしてもらいたいという意見が多かった。若い学生はどうかというと、企業や行政と連携したいという意見があった。どちらも職を近くに引きつけて、多摩の資源を活かしたいということを考えていた。



ところで、今の学生は「商店街」という言葉を実感をもっては知らない。大人が商店街についてノスタルジーと共に語るあの勢いを知らないし、「コンクリートの団地と緑のあるトトロの森、どちらに住みたいか？」と問うと、「コンクリートに住みたい」と言う。今回のワークショップでは、そのような若者達が20年後の多摩でどのようなまちを作っていくのかを考える必要があった。そういう意味では、これまでの自治体の右肩上がり成長を前提とした考え方では、間違えてしまうという点から議論を始めた。

日本の歴史上で、現在直面している人口減少局面の前回はいつかということ、江戸時代の天正年間になる。近代日本人は体験したことがない。したがって、予測手法としてはバックキャストが好ましい。つまり、過去の延長で未来を考えるのではなく、今までのことは置いておき、我々がどういう多摩に住みたいのかを理念として示す。住みたい多摩をまず考える。それが20年後のイメージで、未来から現在を見直して、理念を実現するために何ができるかを考えた。

20年後の職住近接を考える上で大事なキーワードは「近接性」ではなく「多様性」だ。多様な社会で暮らせる形になりたい。阿部多摩市長から指摘いただいたように、ダイバーシティが保たれていることが大事。その背景には、今、多摩地域は住宅地に特化された同質的な空間が広がり、ダイバーシティが無いという認識がある。南多摩に寄りがちなイメージかもしれないが。

さらに、職のダイバーシティをどう考えるか。人の働き方には、組織に属するか自営するかしかない。大きな会社に属するという働き方だけではなく、小さな会社で働いたり、自営することももっと必要だ。ファミリービジネスは現在ではマイナスイメージで捉えられているが、これを大事にすることも大切かもしれない。職だけでなく、男女のダイバーシティも無論重要だ。

以上、この発表は構想レベルではあるが、大変重たい提言だと思っている。これを具体的な事業にすることは、今迄の基本構想の考えの延長ではできない。

来年もこの政策スクールは続いていくと思うが、さらにより精緻に、良いものを作り上げてもらいたい。新しいコンセプトはここで理解していただけたと思っている。

参加したメンバーの皆さんに大きな拍手をお願いしたい。

多摩地域行政連携事業 政策スクール2013「明るく、縮む？多摩」

ワークショップ1

「“職住近接”から見る 多摩の魅力」

政策提言

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩



多摩地域行政連携事業 政策スクール2013「明るく、縮む？多摩」

ワークショップ1

テーマの話題

地域企業
就職先

学生の
社会活動
の奨励

子育て
しやすい
まち

自然と
歴史の
まち

コミュニ
ティビジ
ネス

商売の
バリア
フリー

多様な
職業観

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩



多摩地域の現状と課題

1.住環境に特化したまち

ベッドタウン

2.商業環境が画一化されたまち

画一的な複合商業施設

3.多様なビジネスが成立しにくいまち

昼夜間人口差



目指す理想像 ～多摩の20年後～

1.多様な環境があるまち

多様な考えを実践できる場

2.多様な人間が集まるまち

一人一人が多様な考えを持つ



多摩2033 政策提言・1

1. 多様な職業観の醸成

- ・ 企業の規模に捉われない職業観
⇒ “自営業” や “副業” の奨励



多摩2033 政策提言・2

2. 豊かなコミュニティづくり

- ・ 自然と歴史のあるまち
- ・ 子育てのしやすいまち
- ・ 学生が活躍しやすいまち



多摩2033 政策提言・3

3. ビジネスの多様性の創造

・ コミュニティビジネス

・ 商売のバリアフリー化



ワークショップ1 メンバー

■ 辻 里恵子

■ 松原 朝範

■ 石崎 和紀

■ 今井 裕一

■ 原田 正樹

■ 小菅 慧

■ 三谷 清人

■ 大沼 勇介

■ 藤田 林太郎

■ 鈴木 健斗

ファシリテーター

多摩大学 経営情報学部准教授 中庭光彦



ワークショップ2

○テーマ：「新しいコミュニティとビジネスのつながり」

政策提言

代表報告：平田 歩（羽村市 産業環境部産業課）

「新しいコミュニティとビジネスのつながり」について議論しました。議論を展開するにあたって、各担当者の地域の SWOT 分析を発表しました。SWOT 分析は各地域に見たものではあったが総じて多摩地域の SWOT となると思いました。自然がある、大学が集まっている、古き良き街並み、昔の文化も残りつつそれを残していこうという動きがある、工業都市、中小企業の多さ、世界的に活躍している企業、高い技術を持つ中小企業がある、まだ利用可能な土地があり企業誘致に力を入れている自治体がある、西多摩は外国人の多いグローバル展開を行う企業の存在などで国際拠点になりうるという強みが考えられる。

弱みとして多摩地域は都心からのベッドタウンと言われてきたが、それが限界にきているのではないかと。大企業の撤退、商業施設が一地域に集中している一方で、人口・産業力が落ちている地域がある。多摩地域内の交通も不便である。強みがあっても発信力が弱いので魅力が伝わっていない。観光資源が少ない、あっても気付かれていないということが考えられる。外から来た人の愛着が希薄で、地方から東京に来る大学生は多いが卒業してUターンするために多摩地域への愛着が薄い。

強み・弱みを勘案して考えた結果、ダイバーシティ、新しいコミュニティビジネスを創出する「目指せ！多摩ユニオン」。それには性別、国籍などを問わず人材を活用することが大切だと思う。具体的には地域ごとに特色を活かした具体例を考えました。

八王子市は大学が多いので、サイエンスパーク、テクノロジーパークなどの拠点になると良いのではないかと。また、ものづくり企業も多いが、売れるものづくりのためにはデザイン性も重要視されるので、美術大学と連携してデザインラボなどを作り、ものづくりの再生に取り組む。多摩市はインキュベーションに力を入れたまちづくり。町田市は神奈川にリニアモーターカーが走るので流通の拠点となり得る。日野市は豊田駅周辺の再開発が行われるためヒト・モノ・カネが集まり、社会的企業家が創出されるようなプラットフォームを考えた。立川市は官公庁や大手の商業施設が集まっているので、更に金融センターを造ってお金が集まるように考えた。羽村市は国際交流の拠点、海外でも活躍できるグローバル人材の育成拠点にしていく。昭島市は東京都産業技術研究センターなどがあるので、研究開発の拠点が考えられる。そして「働きやすい」環境と「住みやすい」環境が大切であるから、稲城市は美しい街並みなどの住宅地を整備していきたい。奥多摩にはリゾート的な要素を残す。

各地の強みを活かした産業の地域的な繋がりをつくって相乗効果を狙い、多摩全体のイノベーションプラットフォームをつくっていきたいと思った。

働いて住むことが大切なので実現するにあたっては、SWOT 分析と重なるが、豊富な大学、首都圏とのアクセスの利便性、点在する強みを繋ぐためのコーディネーターとして、ポテンシャルの高い地域金融機関と連携を高めていく。多摩地域の愛着を強めるために地域スポーツの存在、町田市のサッカーチームの力を借りて、「多摩にいて楽しい」という雰囲気盛り上げたい。

最後に課題として、居住環境の整備が必要。環境、緑をどう活かすかを議論する必要がある。

各地を繋ぐインフラも必要。鉄道、電動バス、電動トラックなど環状多摩ラインをつくりたい。そして、情報発信は地域ブランドをつくり、デザイン性を持って打ち出す必要がある。実現に向けてはインフラ整備も含めて財源確保が必要。立川に構想を立てた金融センターを軸に外からお金を呼び込むベンチャーキャピタル、クラウドファンディングなども考える。そして、大学を更に活用するためには大学と行政の連携を強める必要がある。町田市は大学と人事交流をしているが、それを他でも進めて関係を密にする必要がある。それらに加えてエンターテインメント性も必要。いろいろなアイデアはあるが、緑、環境を活かして平和な人々に愛されるエコアンドピースの街をつくっていきたくて考えました。

講評

日野市長 大坪 冬彦

各自治体それぞれの地域性を踏まえた上で、多摩に共通の強み弱みということで、その通りだと思います。面白かったのは、地図に日野はコミュニティカフェなど要素を入れていた。居住環境の整備は稲城以外にもあるなど気になった所はあるが、各自治体がそれぞれの全て品揃えをするのは難しいだろうと掲げている。



2030年を視野に入れた東京のビジョンは自治体同士が箱モノを競う時代は終わった。今後消滅する地域も出る。自治体同士が手を取り合わなくてはいけないと書いてある。問題は地域ごとの特性をどう繋げるのか、プラットフォームをどう機能性を持って繋げていくのが踏み込みが足りなかった。実現可能性はそれに向けて準備をする条件があるので、どう活用して作っていくのか、それぞれの自治体の個性もあるので、有機的に繋げるには壁もある。2つ、3つの自治体間での共通の事業も行っているのでは手本になると思う。

日野と八王子では浅川の写真を撮ってコンテストを行っている。先日発表会があったが、優秀な作品ばかりだった。コミュニティビジネスの分野でもそれはあると思う。環境面はやりやすいが、経済面の連携はこれからになる。それぞれの自治体で閉じた財政があるので、難しい課題だが、やりやすい地域性を持った所から始めるしかないかと思う。

今回の発表は発想豊かだと思いました。20年後に向けて考慮しなくてはいけないのが、高齢化に伴う交通整理として、モノレールの延伸が問題になっている。多摩は南北の交通が弱い。それに弾みをつけて自治体間の会議も始まっているのでキーワードになると思います。それぞれの地域の拠点やそれぞれの業種において、その特性を出すためにどのように絡み合うのか表現できていませんが、今後展開してもらいたい。いずれにしてもユニークな提案をしていただきました。ありがとうございました。

ファシリテーター 根本 忠宣（中央大学 商学部 教授）

ご指摘いただいた点は我々も十分分かってはいたが、最初に多摩が目指すべきビジョンが必要で、トップダウン的なビジョンを自由に描きました。今回はそのビジョンの提示だけで終わってしまいました。私からの希望ですが、これを引き継ぎ、どう実行に移すか考える会を開いていただきたい。



首都大学東京で20年以上、中央大学で10年以上教えているが、学生と同じで多摩に対する愛着があるかという、そうでもない。横浜出身だが、あまり好きではないので今は熱海にいます。多摩というのは大学周辺なので実は本当の多摩は知らない。大事なポイントは、多摩に関係の無い人が多摩に住みたいと思ってもらうことが大切。住んでいない人がどう愛着を持つかというのを考えたい。

馬場様の「品格ある街並み」を多摩に作っていただきたい。多摩ユニオンは東京から脱却したいというのがある。都心は便利というのはわかる、経堂に家があるが勝てるわけがない。多摩が独立するような多摩ユニオンの独立というコンセンサスの元に出した。そうすると本当の意味での魅力ある街作りができると思う。EU 誕生は30年以上、ユーロは50年かかっている。様々な地域を見るとヨーロッパは職住近接になっている。フランスの1950年代のソフィアは皆そこに住んでいる。そのようなエリアが存在し、フランスにできるならば日本もできる。横浜に30年住み愛着はあるが、その魅力と資源を比べると多摩の方がいい。横浜は資源を自分達で殺している。50年100年を考えると独立した魅力ある多摩になると思う。自分達の子孫が多摩に住んだ方がいいと言える多摩になればいい。中央大学が多摩から移転した方がいいと考えていたが、今回を契機に中央大学が多摩で何ができるかを考えていきたいと思いました。それができる優秀なメンバーがいます。頑張ってくださいと思います。

Textbook



強み

- ・ 自然の集まる土地
- ・ 大学の多さ
- ・ 古き良き町並み
- ・ 工業都市
- ・ 中小企業の多さ
- ・ 広い土地と利用自由度
- ・ 国際拠点となりうる

弱み

- ・ ベッドタウンの限界性
- ・ 大企業の撤退
- ・ 商業地域集中
- ・ 多摩内での交通
- ・ 情報発信力の弱さ
- ・ 地域格差
- ・ 観光資源が少ない
- ・ 外から来た人の愛着の稀薄性

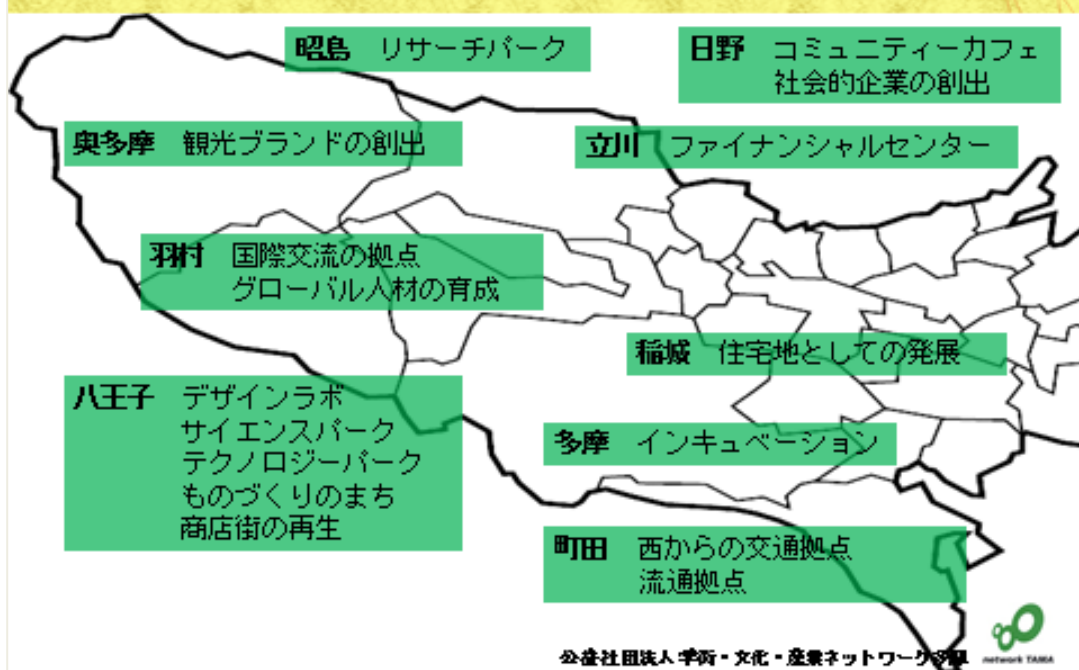


年代・性別・国籍にとらわれない
多摩の新しいコミュニティーと
ビジネスを創出する！

目指せ多摩ユニオン！



多摩ユニオンイノベーションプラットフォーム



実現可能性（多摩の資源）

- 豊富な大学数（八王子市で17校）
- 知の結集（将来を担う学生の存在）
- 首都圏とのアクセスなどの利便性
- 地域金融機関のポテンシャルの高さ
- 昭島の高度な公的研究機関の存在
- 横田基地（軍民共用化の可能性）
- 技術力の高い中小企業の存在
- 地域スポーツの存在

課題

- 居住環境の整備
⇒みどりのリゾート地構想
- 交通網を中心としたインフラ整備
⇒環状多摩ラインの敷設
- 情報発信力の強化
⇒地域ブランドの創出・デザイン性の発揮
- 財源確保
⇒金融センターを軸にした投資の呼び込み
(VCやクラウドファンディングの活用)
- 大学と行政の連携
⇒人事交流の活性化
- エンターテインメント性の発揮
⇒エコ&ピース



ワークショップ2 メンバー

横山 琢也 稲城市 藤田 一貴 多摩市

小松 匠 八王子市 平田 歩 羽村市

服部 文哉 日野市 奥山 航 町田市

ゲントウアンガム 首都大学東京 田中 恒平 中央大学

杉山 健二 中央大学 井上 貴之 中央大学

ファシリテーター 根本 忠宜 中央大学 商学部教授



ワークショップ3

○テーマ：「少子高齢化社会における商店街の役割」

政策提言

代表報告：田島 由里子（稲城市 企画部企画政策課）
藤野 香織（小金井市 市民部市民課）
鈴木 啓史（立川市 産業文化部産業振興課）
小作 総一（羽村市 財務部課税課）
姫島 友子（町田市 政策経営部企画政策課）

地域のインターネット・ショッピング成功法として話をしました。はじめに羽村市の商工会で運営をしている「はむらe市場」について話をしました。はむらe市場は、商店街衰退が進む中で分散している地域商店を集めてネットショッピングをしています。しかし、加盟店数、消費者数が伸び悩んでいます。消費者の中で定着しておらず、大型店・大手のインターネット通販が定着する中で、成功に導く方策がないか、限られた資源の中で有効な解決策を提案していこうとなりました。

新規顧客の獲得ターゲットとして、買い物困難者を挙げました。宅配サービスのニーズに合う人ということでメインターゲットを決めました。サブターゲットは日野自動車など工場関係者の人、若年層なども挙げられました。インターネットの利用は若者が多いが、会員が少ないのに加えて利用率も少ないため、今回は高齢者・子育て世代としました。買い物困難者をターゲットにしたことで、戦略方針として地域密着とコミュニケーションを売りにすることにしました。「安心安全」を売りにしたり、「地域見守り隊」のような別の付加価値を付けていこうと考え、これらの方針の元、話し合いを進めました。

顧客獲得の課題として、前提としてはむらe市場には加盟店が市内18店舗、出品が180点、会員登録後にインターネットかファックスで注文できます。配達時間は月曜から金曜の午後4時から6時に限定されおり、手数料は100円です。

これらを踏まえた課題として3つ挙げました。1つ目は広報不足。はむらe市場のホームページはトップページに載っていない。現状で3階層の一番下になっている。2つ目は利用者登録制度の問題です。利用登録には商工会議所に行って登録する必要があり、利用者に高いハードルとなっています。3つ目は商品の魅力が不足していることです。

加盟店が販売できる物は1店舗10品までとなっており、地域の誰が売っているか、店がどこにあるかが載っていない。オンリーワンの商品もあまりない。例えば、地元の人気商品で唐揚げがあるが店頭で行列ができて、ネット上では“ただの唐揚げ”となっている。その魅力を伝えられていない側面もある。

それに対する改善策として、広報不足は、はむらe市場のチラシづくり、広報活用、ホームページ改善、市福祉部局との連携など市内高齢者全員に知ってもらう状況をつくるのが大切。地域密着をもっと前面に押し出し、各店舗の一押し商品なども出し、面白そうだと思ってもらう、サイトも見たいと思ってもらう工夫が必要。

また、ネット販売にも関わらず、家に居ながら会員登録ができないのは問題。システム導入にお金がかかるならば、ファックス、チラシに付けた申込書などでできるようにすることを提案する。地域の電

気屋さんと連携してパソコン操作の説明をしてもらう、サービスを知ってもらうきっかけとして初回購入の特典などを付けるというのも出た。

3つ目は魅力的な商品を出すということです。複数のお店でコラボ商品を提案することで、加盟店同士の交流を促進することも期待できる。

二つ目のアイデアとして、事業の安心感や地域密着性を生かすアイデアを考えた。電球を売ることに加えて、それを付けるサービスも一緒に売る。商品ではないが、付加的サービスとして注文した時などに高齢者の安否が確認できるなどのサービス導入もどうかと考えた。

そして、商店街活性化には情熱的に動くキーマンが必要。強みをキーマンがPRしていくことで上手くいくと考えた。高齢者の見守りなど福祉的な機能を付けていけば、e市場が羽村になくてもならない存在になるかと考えた。

講評

福生市長 加藤 育男

「少子高齢化社会における商店街の役割」というテーマは福生市のためにやってもらったことかと思えた。多摩地域の人口減少が進む中で、単一自治体で解決できない課題を解決するということがあった。

多摩で最初に人口減少が始まったのは福生市で10年以上前に始まっているが、今、人口は5万9千人になっている。そこで、本日の主催であるネットワーク多摩と細野先生をお願いして商店街の活性化について調査してもらい、原因を究明していただいた。「教育」「住宅」「雇用」「情報発信」が人口減少に繋がる問題で、真剣に取り組まなくてはならないということで4年前から継続している。

職員全員が様々な角度から人口減少問題に取り組んでいるが、はむらe市場は素晴らしい提案かと思う。商工会と連携して福生でも始めているが、一番の問題は後継者がおらず、やる気がないことだと考えている。商店街を知らない若者、コンクリートに住みたい若者が多いということを考えると、そこを行政のトップとして考えていかななくてはならない。

「26市の連携が無いと生き残っていけない」と第2グループの提言があったが、この危機感を持っていかないと50年後、100年後にやっていけないと思っている。昨日、職員採用の最終面接があったが、優秀な人が来ている。昔は行く所がないので役所に勤めるという人はいたが、今は人材の宝庫で、私達が勉強していかないとこの宝庫をうまく活かさないのではないかと考えている。



ファシリテーター 片野 浩一（明星大学 経営学部 准教授）

「はむらe市場」は、昨年10月から羽村市商工会が行っていて、4月からゼミでどうやったら盛り上げられるか学生が中心となって行っている。来月、最終報告会があるので、その行き詰まりのためにネタをもらいたいと思っていた。

羽村市内でも商店街は分散していてネットショッピングを考えた。なぜ盛り上がりには欠けるのかを考

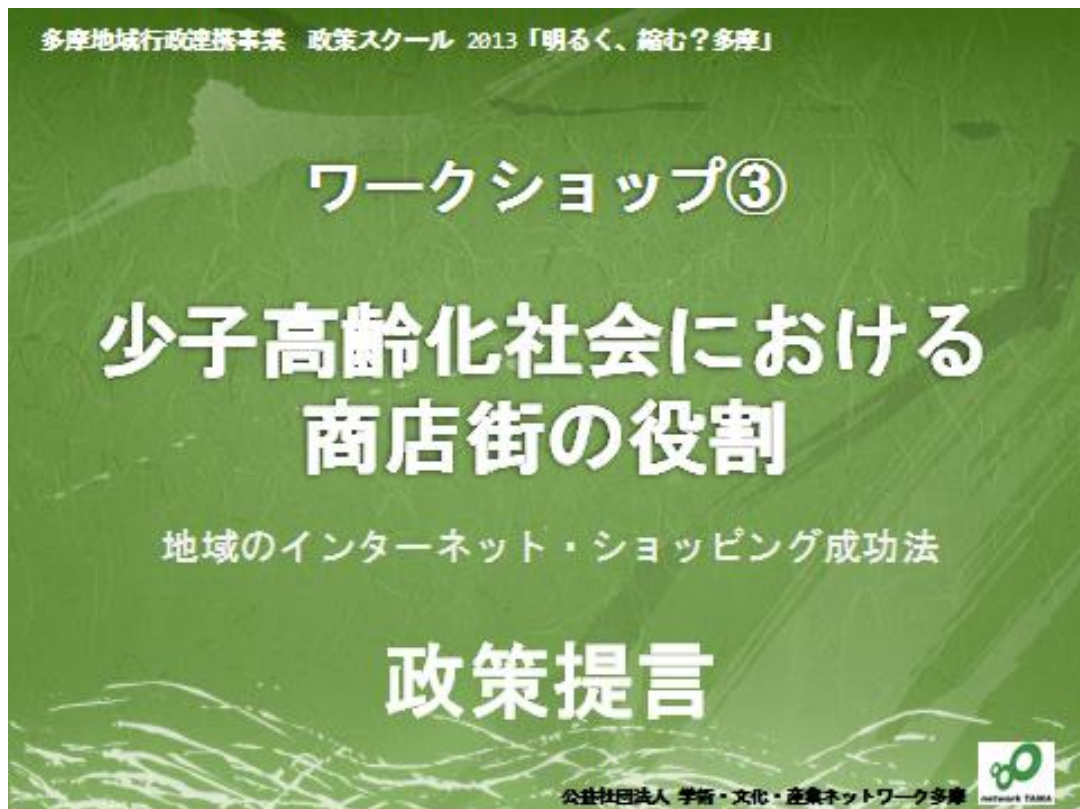


えてみると主体を誰と考えているのか、ターゲットを誰と考えているのかがはっきりしていない。高齢者の買い物難民は買い物意欲が旺盛で、貢献されるのか、それに対して加盟店は参加しようと思うのかという利害が不明確ではある。

今後この事業を継続して発展させるためにはターゲットをどこかに絞る、それは行政では難しいこと。意思決定をする、ターゲットを決める、と誰かを切ることになる。その中で全てを対象にしてネットショッピングを幻想のように発展させることができるかと思うと絞るという意思決定が必要かと思う。

その時に地域主導のネットショッピングができないのかと思ったが行政が区分ではない。世界は限定されない。多摩地域のネットショッピングとして拡大してお客様の移動や居住にあった広い商圈の中で展開するのが重要かと考えた。ネットショッピングに参加していない所に、整骨院の生体出張サービスが入っていた。そういう特異性を打ち出して、地域主導ならではの民間に負けないようなネットショッピングにできれば発展できるかと考えた。各地域でもネットショッピングを行政区分の横断した中で活用してもらえればと思う。

Textbook



全体の流れ

- 1 はじめに
- 2 新規顧客の獲得ターゲット
- 3 顧客獲得への課題
- 4 各課題への改善策

はじめに

～羽村市商工会運営「はむら e 市場」の活性化について～

商店街衰退が進む中、打開策として分散する
地域商店を集めてネット・ショッピングを実施

しかし・・・

- 加盟店数と消費者数がそれぞれ伸び悩む
- 大型店、大手インターネット通販の利用



限られた資源の中で有効な実現策を！

【新規顧客の獲得ターゲット】

- **メインターゲット（今回の提案の対象）**
→ 買い物困難者（高齢者、子育て世代など）
- **サブターゲット（想定されるその他の対象）**
→ 日野自動車等工場関係者（羽村市の強み）
→ 若年層（インターネット普及世代）



**地域密着・コミュニケーションを
売りにする！**

【顧客獲得への課題】

- ① **広報不足**
ターゲットへ「e市場」の取組が知られていない
- ② **利用者登録制度の問題**
市商工会議所へ出向かなければいけない
- ③ **商品の魅力不足**

【改善策①】 広報不足対策

- ✓ e市場のチラシづくり&配布
- ✓ 新規利用者獲得
- ✓ 市広報誌の活用
- ✓ 市・商工会のホームページの表示改善

【改善策②】 利用者登録制度の問題

登録方法改善

現状、市商工会議所へ出向かなければいけない
→FAX、郵送による登録

【改善策③】商品の魅力不足

魅力的な商品の提案

例えば・・・

- ・ 複数商店コラボ商品
- ・ 電球取り替えサービス



ワークショップ3 メンバー

稲城市		羽村市	
田島 由里子		小作 聡一	
小金井市		福生市	
藤野 香織		川村 道治	
立川市		町田市	
鈴木 啓史		姫島 友子	
首都大学東京		中央大学	
佐藤 誠		関野 尊正	
中央大学		明星大学	
鶴岡 達也		幸治 亜由美	

ファシリテーター 片野浩一（明星大学経営学部准教授）



Photograph



全体講評

馬場 弘融（前 日野市長）

短い時間であるにも関わらず、うまい具合にまとめてもらいました。いずれにしても消化不良なので是非とも続きを聞きたい。参加した先生方もそのような思いが強いと思うので、主催者のネットワーク多摩は多摩地域の全自治体と連携して、継続して行っていただき、然るべき成果を残してもらいたいと思う。

第1、第2グループは20年のスパンで未来から見たかった。第3グループは現実的な問題からだった。それぞれのグループの特徴があったかと思う。

そして今日参加してわかったことは、学生と自治体職員の交流の場をもっと深めていく必要があると思いました。現場は原理原則の通りにはいかないが、学生は理論を使っている。その間を取るにはこのような人間的な繋がりの中で行っていくのが必要かと思います。市の職員と大学との人事交流があればもっと広がるかと思います。私としては農業についてももっと触れていただければと思いました。

今回の催しは自治体OBとして市長さんなどにも意義深い会議だったと思います。学生さんにも自分達の学んだ多摩地域で働くことも選択肢として考えていただければと思う。

皆様に感謝を申し上げます。

修了証・感謝状 授与式

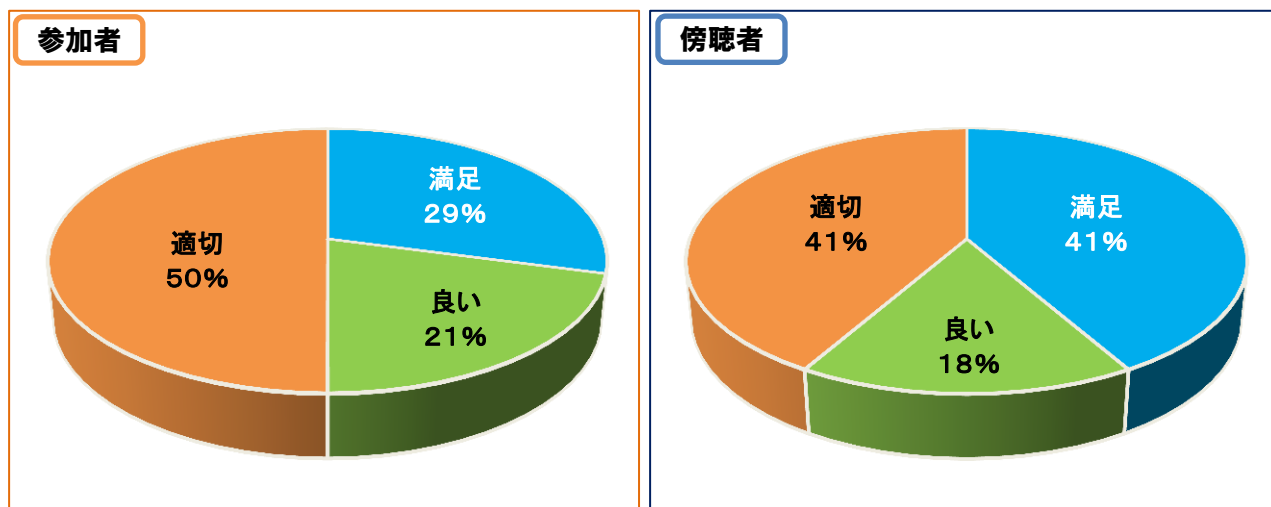


懇談会



第3部 アンケート

【政策提言 発表内容・講評】



★参加者感想（学生）

- ・短時間でワークショップ後の発表は、どのチームもまとまって発表できた。まだ足りない所も多々あるが、次回のワークショップに継続していけたら良い（20代男性）
- ・社会人の発表を聴ける機会はなく、内容も興味深いもので参加して良かった（20代男性）
- ・予め勉強はしていたとはいえ、午前の限られた時間ではどのチームも踏み込んだ所まで議論が進んでいないという印象でした。しかし限られた時間を考慮すれば十分な提案はできていたので、次回も引き続き議論できたら良い（20代男性）
- ・どのチームも様々な議論をされていて勉強になることが多くありました。地域の魅力の見直し、発信がこれからは求められるのだと知ることができた（20代女性）
- ・職住近接や自分に馴染みのある市について、じっくりと考える機会を今まで持つことができなかつたので政策スクールを通じて皆様が多摩についてどう思っているのか、多様性を生むためにはどうすれば良いのかという討論を聞くことができ、多摩の魅力や多様性、20年後について自分なりに考えることができたので良かった。定刻を過ぎてしまったのが気になったのでタイムキーパー等を決めたりした方が良いのではないかと思います。ありがとうございました（20代女性）

★参加者感想（行政職員）

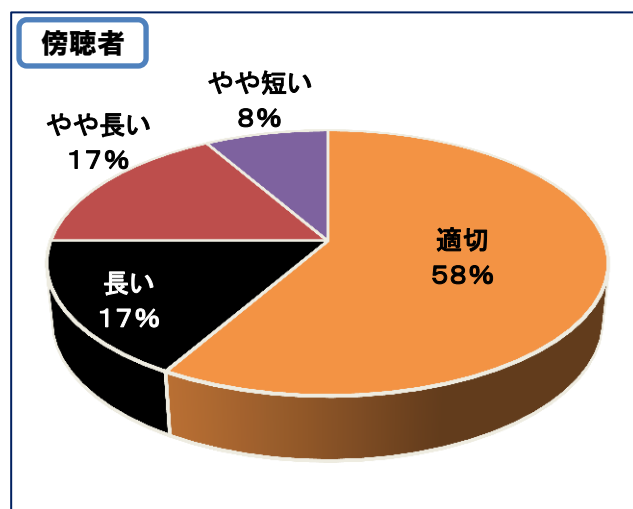
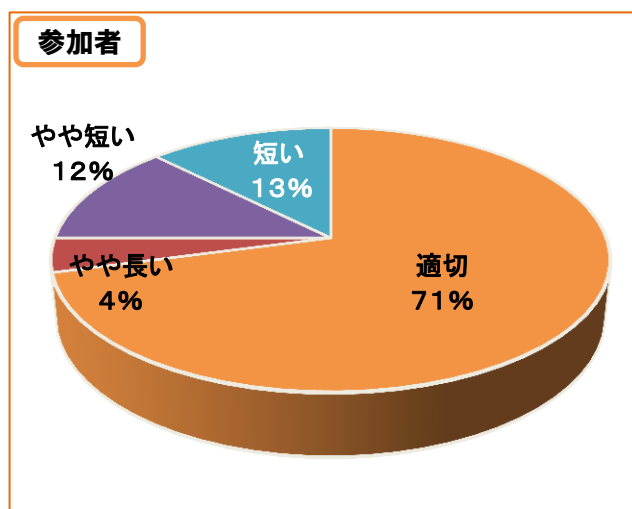
- ・3チームの発表によって、現状や課題、強み、弱みが明らかになったように思う。これらの中から多摩地域独自のモノ、発展していく可能性のあるモノを見極め、実現させていく必要があるように思いました。全体を踏まえ改善していけばよい多摩になっていくように感じた（20代男性）
- ・現職の方からの意見がとても参考になりました。ワークショップで気付かなかつたこと、浅かつた点を的確に指摘してくださることで反省・成長に繋がりました。講師の方のディフェンスで自分達がどう動いていたか、動かされていたか、も分かり面白かつたです（20代男性）
- ・様々な自治体職員の話、考えを聴けて良かったです。学生が商店街を知らないのは驚きました（20代男性）
- ・報告内容について在任中の市長から講話をいただき、報告内容のフィードバックができたことは自分達の議論がより現実的になつたと感じた（20代男性）

- ・私が参加したチーム以外の話がとても興味深く、今後の仕事上で勉強になった（20代男性）
- ・発表者用にパワーポイントのコピーがほしかった（20代女性）
- ・パワーポイントを利用して各チームが発表し、講評していただくことで、ただ議論をするだけでなく現実性のお話もしていただけて良かったです（20代男性）
- ・他市の知らなかった魅力を知りつつ、多摩として生かせないか考えられ、私自身希薄と感じていた多摩地域が今後繋がりを持てるのではと思った（20代男性）
- ・同テーマでそれぞれのグループが討議し、夢を描くのも面白いと思う（20代男性）
- ・3チーム異なった角度から多摩を考えているので、他のチームの発表は参考にできる部分があり良かった（20代男性）
- ・現役市長から講評がもらえて良かったです（30代男性）
- ・議論だけに終わらせず、大学と行政が連携して政策を実現する「政策スクール」であっていただきたいと願います。ここでのネットワークを実践に活かせるような取り組みとして展開されることを期待します。各市長も参画する取り組みとして行政域を超えた政策の実現に期待を感じます（30代女性）
- ・今日だけでなく何らかの形で次回以降に繋がっていくことを期待しています（20代男性）
- ・ワークショップの結論をこのような場で首長をはじめとした人々にプレゼンするという機会は若手職員にとって非常に有意義だと思う（20代男性）
- ・非常に良くまとまっていた。現市長様からのご意見を聞いたのが良かった（20代男性）
- ・多摩の未来、また本政策スクールの次回以降の継続開催について課題の見えた良い発表が多かった（30代男性）
- ・グループワークの内容を全体で共有できる場はとても良かった。更に首長のコメントはネットワーク多摩でなければできないと思います。この強みを継続してください（40代男性）
- ・報告内容は多摩地域全体を通じて大変興味深い内容で参考になった。WS1のキーワード「多様性」は今後の総合計画の中でヒントになった（50代男性）

★傍聴者感想（企業・団体職員）

- ・市長達が身近な目線で話をしてくれたのが良かった（30代女性）

【政策提言 報告時間】



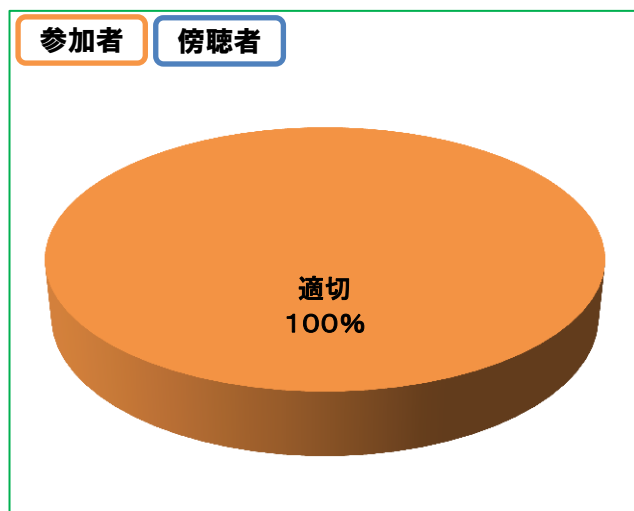
★参加者感想（学生）

- ・今回の発表は短い準備時間しかなかったので、もっと長い時間が欲しい（20代男性）

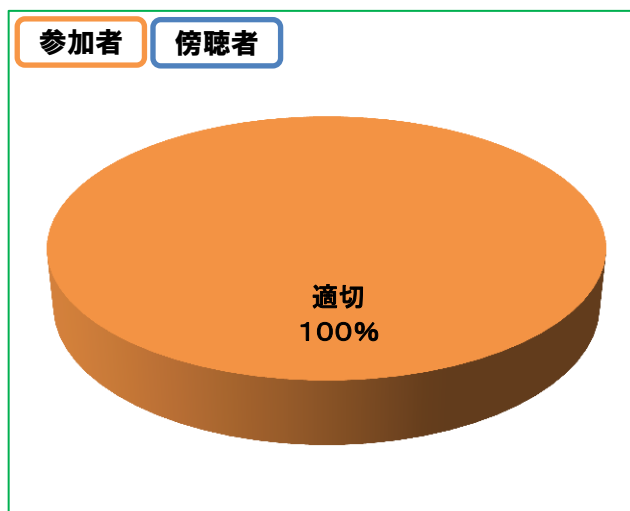
★参加者感想（行政職員）

- ・学校の式典ではないのですからセレモニーはほどほどでよい。その時間を検討などに回した方が有意義ではないでしょうか（30代男性）
- ・検討時間の短さも、十分な報告に繋がらなかったと思います（20代男性）
- ・教授の方など街づくりに関して専門的に研究なさっている方の話を聴くことができるのは大きなメリット。発表時間が短く、内容に踏み込めていないため、コメントをいただくのが少し申し訳ない気がしました（20代男性）
- ・市長とファシリテーターの時間をもう少し長くて良い（30代女性）
- ・どのチームも濃いテーマ、短い時間でまとまって分かりやすかった。講評をいただいたが発表した構想を実践するための方法と具体的に学ぶ機会が欲しい（20代男性）
- ・短時間で作られたのに大変すばらしい発表でした（30代男性）
- ・短い時間のワークショップで各チームともよくまとめていたと感じた。共通する行政課題の解決に広域連携でディスカッションは大変有効であると思う。これを実務に取り入れることができれば多摩の生き残りに繋がると思う（40代男性）

【懇談会内容】

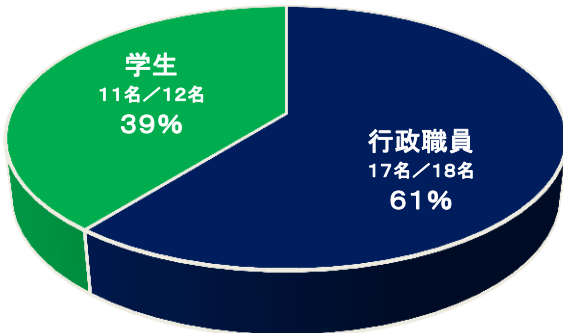


【懇談会時間】

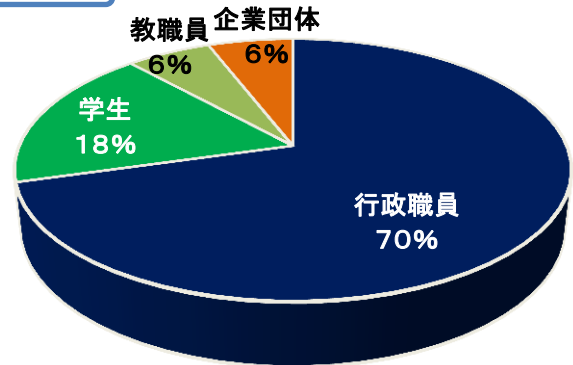


【アンケート回答者】

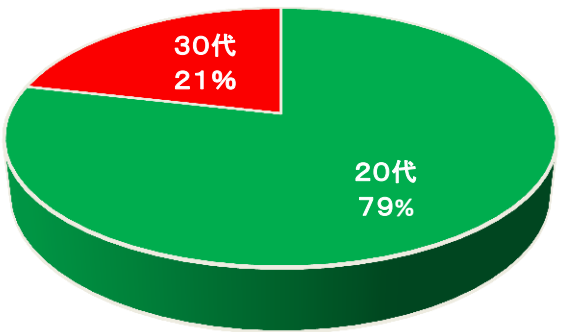
参加者



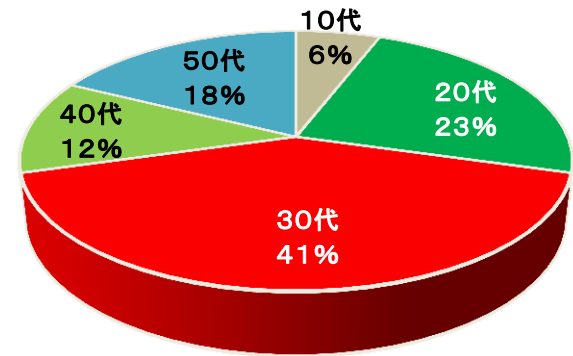
傍聴者



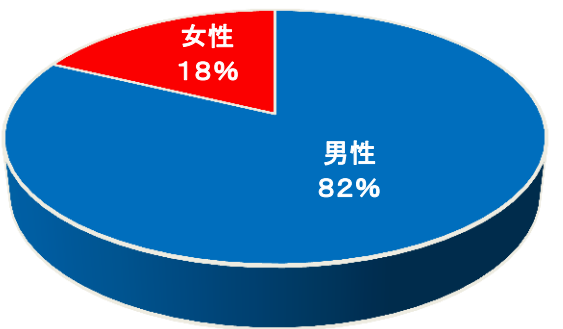
参加者



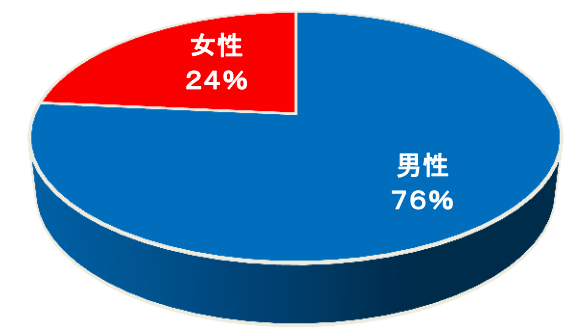
傍聴者



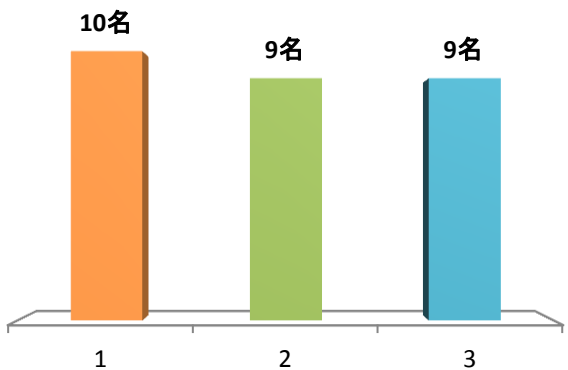
参加者



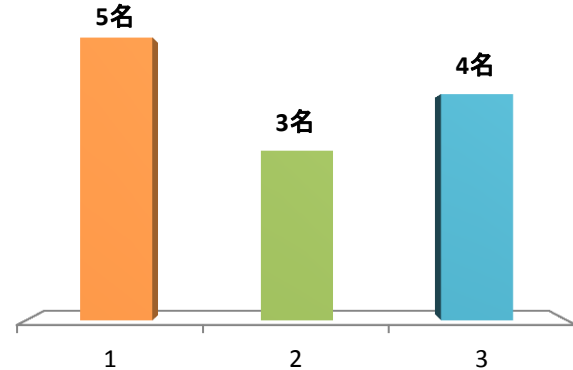
傍聴者



参加者



傍聴者



<政策スクール2014への要望>

★テーマ

- ・「多摩」というキーワード
- ・高齢化、少子化、エネルギー、20年後の女性の生き方、地域とのかかわり方、景観とまちづくり
- ・オリンピックを契機とした多摩地域のあり方
- ・テーマは「利便性の追求」かなりアバウトであるが暮らす上での利便性は欠かせないように思う。その部分を追求することで多摩地域の発展、居住者満足、人口増加に繋がると考える
- ・テーマは大学の先生の専門分野であればよいと考えています
- ・多摩地域の各自治体の実際の政策について行いたいと思いました
- ・多摩の抱える問題点を各自治体はどのように捉え、どのように対応していくのか、を実際の職員の方に聞きながら学生として調べて意見したいと思いました
- ・財源確保に繋がるアイデアや方法を話す内容があったら参加したい
- ・多摩地域の中でグローバル人材や企業を育てることについて話し合う内容があったら参加したい
- ・多摩地域が市の枠を超えるためには何をすべきか
- ・多摩地域の抱える具体的問題について、議論やワークショップを設けると良い
- ・今回話した内容を更に実践するために話し合い
- ・同じテーマを深めたい
- ・テーマは良いと思います
- ・テーマに対して更に深く議論を交わすために発表までに議論できる日数が欲しい
- ・テーマを中長期的な課題にフォーカスし、今の流れで良い
- ・地域の少子高齢化問題、地元企業の発展、商店街の復興事業による地域活性化
- ・毎回テーマを変えたら今回の状況・発表がもたないないので、今回のワークショップを基に、より現実的な政策論
- ・本来の意味での“市民協働”とは何か
- ・行政への若者や企業の参加について
- ・行政への関心が薄い若者やパートナーとして、良い関係を築いていく必要のある企業の行政への参加が今後の地域の特性を生かした産業振興に必要と考える
- ・商店街活性化のために企業等と協力して取り組める事業を考える。特定企業の提案可能な連携策等について（行政にお金が無い中で他のリソースをどう活用するか）
- ・国、都、市町村、大学等の連携をいかに進めていくか
- ・区市町村の横の連携をいかに進めていくべきか
- ・市が計画している案の内容とその計画が実施されるまでの過程。それをどのようにして市民に知ってもらい広めるか
- ・行政連携を考えた時に、どの分野や内容で連携する必要があるか、また連携できるのかの洗い出しも大切ではないかと思いました

★実施方法

- ・実施方法はこの形式が良い
- ・実施方法はそのままよい
- ・実施方法は変えないで、討論時間を長くすると考えが深まる

- ワークショップの討論時間を延ばしてほしい
- グループワークの時間を増やしてほしい
- 活発な意見交換が重要だと思います。短時間では活発な意見交換が十分ではありませんでした。発表よりも意見交換主体の構成が良いと思います
- 実施方法はグループワークとプレゼンテーション
- 1日で終わらせてしまうのではなく2日構成にして時間の確保ができれば、より実りあるワークショップになった
- 机を近付けて、周りの人と近い状況が好ましいです
- 時間制限があることと、皆がワークに参加し慣れていないことが、意見の出しっぱなし、誰もがしっかりこない方向に進ませる要因だと思いました。各人の政策を選ぶ基準を用意しておくことが重要だと思います。自分自身も後悔しないように気になったらすぐに発言しようと思いました
- 具体的な数字を資料に入れると、現状をはっきり見えるようになる

★人員構成

- (チーム内は男性が多いため) 男女比を調整してほしい
- 実施方法は今回のように少人数で議論が良い
- 人数が多すぎ討論ができませんでした。チームとして動ける5名程度の構成にしてください
- 人数を減らして一人ひとりの考えを大切にしたい。話し合いが行いたい。様々な立場の人が参加するので、もう少し大まかで誰もが興味を持てるテーマを設定していただきたい。
- 議論するテーマに合った職員を集めてのワークショップを行えば、他市の状況も把握でき、より実りある政策案が生まれると思う
- 神奈川県政令指定都市3市も加えても面白い



<政策スクール2013 ご意見・ご感想>

★参加者感想（学生）

- とても有意義な時間であり、考えさせられることがあって、異なる人たちのアイデアをまとめ、次なる多摩を作っていきたいという思いがこのワークショップで出てきました。また参加する機会がありましたら参加したいです。（20代男性）
- 今回、政策スクールに初めて参加させていただき、普段交流できない市職員と活発な意見交換できたことに非常に満足できました。定期的にこのようなセミナーが開かれることを期待しています。まだまだ思慮が浅いこともあり、職員の方に思い切った意見をぶつけられない場面もありましたが全体を通して現職市長さんの話を聴けることができ有意義でした（20代男性）

★参加者感想（行政職員）

- 今回のような貴重な場を設けていただきありがとうございます。今後も継続していただけるようお願い致します（20代男性）
- 普段の業務では関わることができない方々と交流できて良い経験となった（30代女性）

★傍聴者感想（学生）

- 学ぶことが多くあり、大変有意義な実りある時間でした。また開催していただきたいと思いました（20代女性）
- 今まで捉えていた「職住近接」の見方とは違った視点で考慮することができ、大変参考になるワークショップでした。また、学生だけの討論とは違い、実際に現場で働いている方々の意見を聞くことで、この地域の現状を把握することができたので、今後これを参考に地域問題について考えていきたいと思います（20代女性）

★傍聴者感想（行政職員）

- 行政と大学機関の連携事業の一つとしてこのような取組を行うのは人材育成、ネットワーク形成という点からも非常に有意義と感じた（20代男性）
- 検討と報告講評の場を分けることで内容的な充実が図れると感じた（20代男性）
- 非常に良い催しだった。事務局及び各担当の尽力に感謝致します。本日はありがとうございました（30代男性）
- 普段話を聞くことのできない首長の考えを聞く良い機会だった。ワークショップも今後行政にも必要であると感じた。この政策スクールが継続することを期待します。また学生の行政への参加の基盤となることも期待します（40代男性）

★傍聴者感想（企業・団体職員）

- ファシリテーターの方針によりますが、3チームで話し合っているレベルが違うので合わせた方がよかった。特にWS3はかなり具体的であったと感じた（30代女性）
- 今日で終わりではなく、ファシリテーターの先生も言っていましたが、今後、今日の発表をベースに更に深く議論したり、分析したりすることを希望します（30代女性）
- 市長、職員、大学教授、学生が集まって話をする機会はとても意義のあるものだと思いますし、ネットワーク多摩だからできることだと思うので、今後もぜひ続けてほしいですし、参加したいと思いました。今日参加していない多摩地域の各市役所職員にもこの内容を共有できたらなあと思います（30代女性）

■ 政策スクール2013 参加機関 ■

加盟機関 (17機関)	行政 (9機関)	稲城市 多摩市 日野市	小金井市 八王子市 福生市	立川市 羽村市 町田市
	大学 (5機関)	首都大学東京 帝京大学	多摩大学 明星大学	中央大学
	企業・団体 (3機関)	多摩信用金庫 読売新聞	公益財団法人東京市町村自治調査会	
未加盟機関 (3機関)	行政 (2機関)	東京都	東大和市	
	企業・団体 (1機関)	西多摩新聞社		

■ 政策スクール2013 参加人数 ■

第1部	ワークショップ	74名 (行政:41名、大学:19名、企業等:14名)
第2部	基調講演	81名 (行政:45名、大学:25名、企業等:11名)
第3部(1)	全体会	81名 (行政:47名、大学:22名、企業等:12名)
第3部(2)	懇談会	52名 (行政:31名、大学:15名、企業等:6名)
合計		92名 (行政:50名、大学:26名、企業等:16名)

第1テーマ 「“職住近接” から見る多摩の魅力」



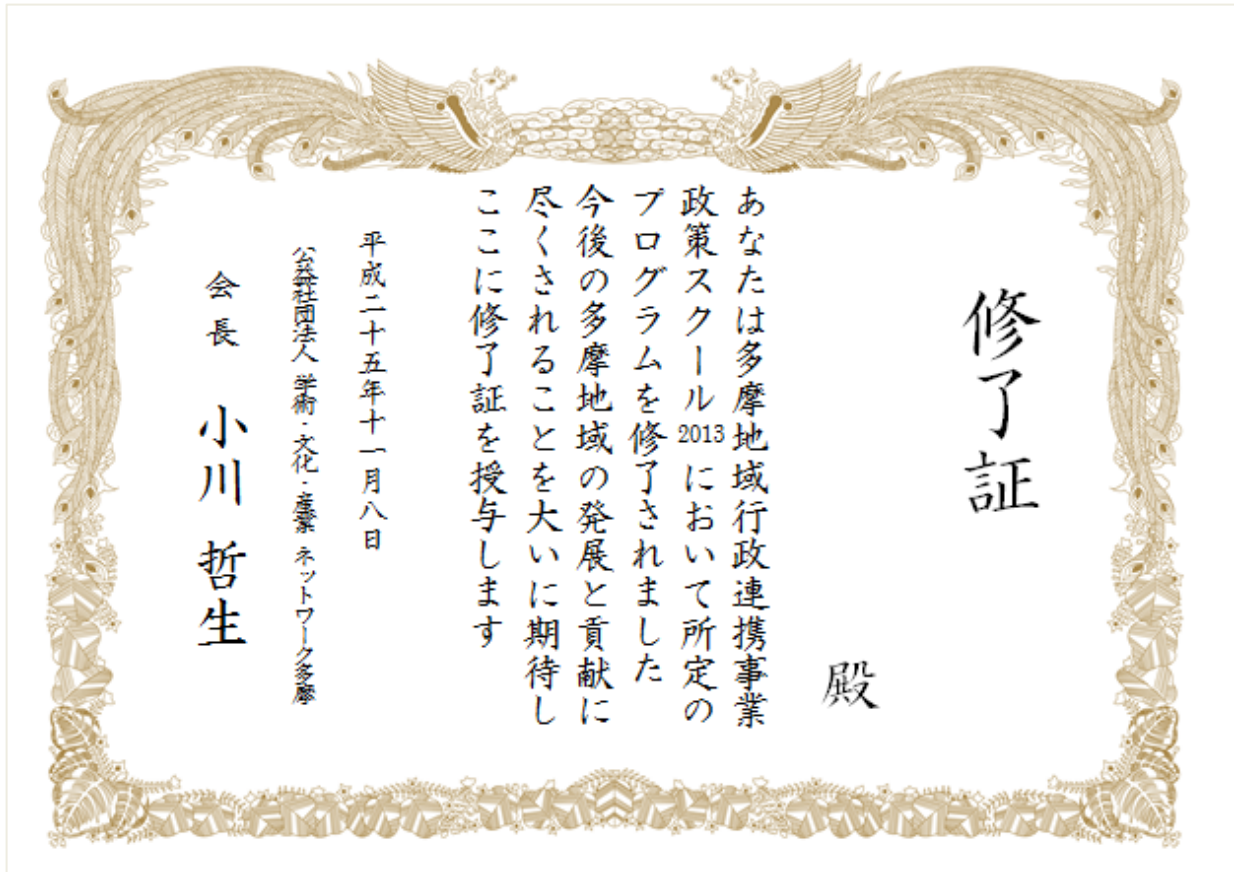
第2テーマ 「新しいコミュニティとビジネスのつながり」



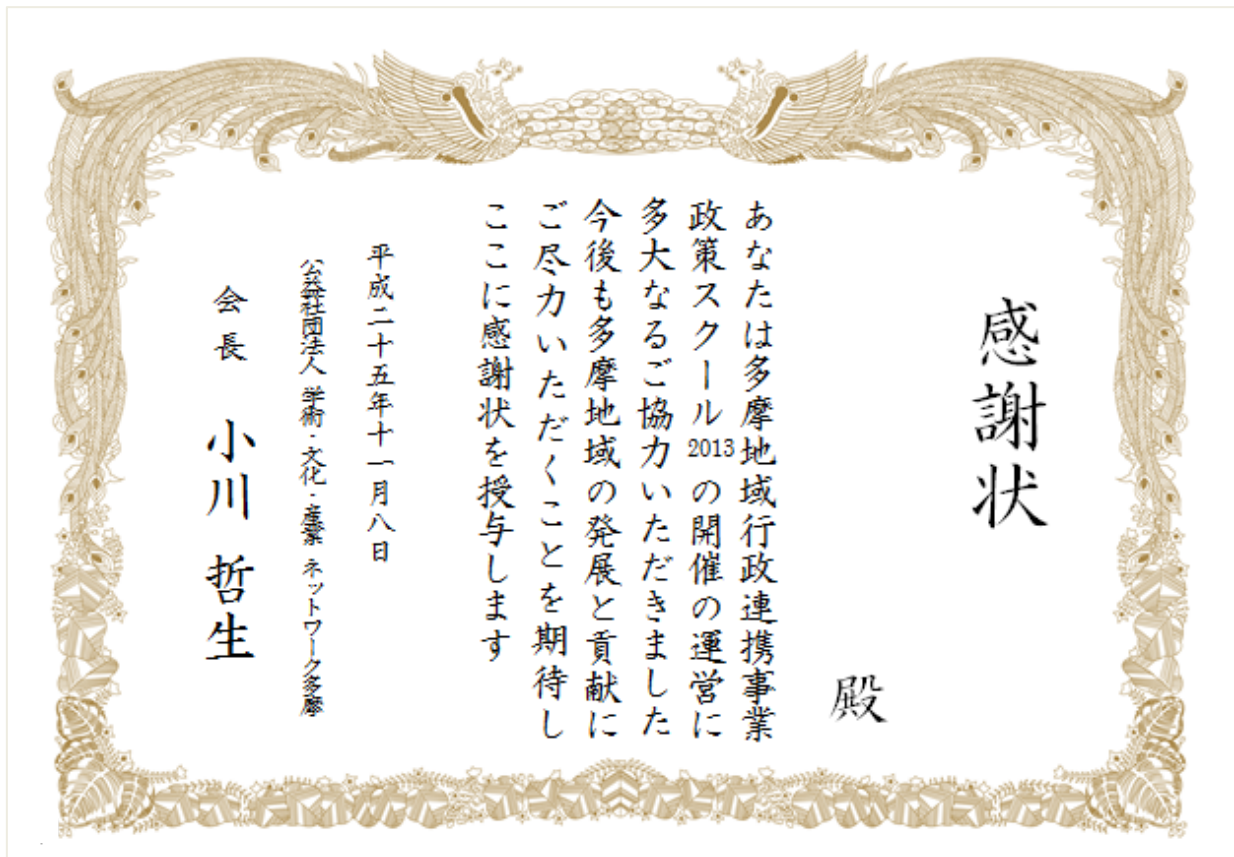
第3テーマ 「少子高齢化社会における商店街の役割」



【修了証】ワークショップ 参加学生、行政職員



【感謝状】ワークショップ ファシリテーター、運営委員



多摩の将来 市長に提言

地区政策勉強会「ユニオン構想」など

多摩地区の直面する人口減少問題や将来像について考える政策勉強会「明るく、縮む? 多摩」が8日、府中市の都市町村職員研修所で開かれた。多摩地区の大学や短大、自治体、企業などで作る団体「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が主催して、初めて行われた。

多摩地区の自治体の若手職員や大学生、企業関係者など約90人のほか、多摩、日野、福生、小金井市の4市長も参加。勉強会では、若手職員と大学生のグループが、「職住近接」から見る多摩の魅力」など三つのテーマについての解決策を考えるワークショップを実施。その上で、解決策を参加した現役市長に提言した。

このうち、羽村市職員らの参加したグループは「自治体の強み、特性をつなげた『多摩ユニオン構想』」を提言。これに対し、大塚冬彦・日野市長は「やり方に課題はあるが、ユニークで面白い提案だ」と講評していた。

多摩の課題「連携して解決を」

自治体若手職員ら 政策スクール

前日野市長「横田に国際空港を」

単一行政では解決が難しい多摩の課題を、自治体の若手職員や学生らで考える政策スクール「明るく、縮む? 多摩」(学術・文化・産業ネットワーク多摩主催)が8日、府中市の東京都町村職員研修所で行われた。多摩地域の若手職員や大学生など約90人がワークショップなどに参加。前日野市長の馬場弘龍氏が基調講演した。馬場氏は講演の中で「横田に国際空港ができれば多摩の可能性は大きい」と話した。

数店舗、出品商品約180の同事業の改善策を話し合った。

ワークショップでは同事業のマイナスイメージとして「商品が少ない」「インターネット上で登録ができない」「地域密着をうたっているがサイトから生産者や商店が見えない」「羽村市のHP上からたどり着きにくい」などを抽出。解決策として「登録方法を改善する」「ターゲットを高齢者や子育て世代など若い物困難者としてつ、会員増加策として市内の工場などへPRし、おためしキャンペーンなども考える」「商品の魅力的に」「地域の見守りなどコミュニティアクションにつながるサービスを加」などの提案を話し合った。

また、「江戸時代の労働時間の短さとか、循環社会のゆとり、役割意識の徹底などを学べる」の中で、「農民自治で戦線がないとい

多摩の古い歴史と文化に学ばせよ」とし「多摩人は皆が大將なので話がなかなかまとまらないのが欠点。しかし連携できれば大きな力を発揮する」とも。また、50年〜100年のスパンでビジョンを考える必要を説き「農業②ハイテク③アニメ文化④飛行場をキーワードとし、「横田飛行場を民間利用し、モデルを横田中心に整備して国際空港とすれば大きな可能性が広がる。言いにくくても誰かが言い出さなければいけない」と政策論を展開した。

また、「江戸時代の労働時間の短さとか、循環社会のゆとり、役割意識の徹底などを学べる」の中で、「農民自治で戦線がないとい

「難しい時代だが、量から質へのスロウライフ、自然環境など、多摩は21世紀の実験に耐える地域だ」と力説した。

「市民感覚が大事というが、自分の役割を果たさないと文句ばかり言う奴はだめ」とし「気概を持ってこそ

馬場氏は講演「多摩の円熟期を明るく生きる」の中で、「農民自治で戦線がないとい

「多摩の古い歴史と文化に学ばせよ」とし「多摩人は皆が大將なので話がなかなかまとまらないのが欠点。しかし連携できれば大きな力を発揮する」とも。また、50年〜100年のスパンでビジョンを考える必要を説き「農業②ハイテク③アニメ文化④飛行場をキーワードとし、「横田飛行場を民間利用し、モデルを横田中心に整備して国際空港とすれば大きな可能性が広がる。言いにくくても誰かが言い出さなければいけない」と政策論を展開した。

また、「江戸時代の労働時間の短さとか、循環社会のゆとり、役割意識の徹底などを学べる」の中で、「農民自治で戦線がないとい

「難しい時代だが、量から質へのスロウライフ、自然環境など、多摩は21世紀の実験に耐える地域だ」と力説した。

「市民感覚が大事というが、自分の役割を果たさないと文句ばかり言う奴はだめ」とし「気概を持ってこそ

■ 政策スクール2013 運営委員 ■

稲城市	企画部企画政策課企画政策係	主任	和多 建
小金井市	企画財政部企画政策課企画政策係	副主査	津田 理恵
立川市	総合政策部企画政策課	主査	小林 直弘
	総合政策部企画政策課企画政策係	主任	根岸 竹明
	行政管理部人事課人事育成推進係	係長	三好 裕介
多摩市	企画政策部企画課	主査	原島 智子
八王子市	市民活動推進部学園都市文化課	主任	天野 憲一
羽村市	産業環境部産業課商工観光係	主事	葛西 志耕
日野市	企画部企画調整課	主査	川鍋 孝史
	教育部生涯学習課	主査	長島 稔
福生市	企画財政部	主幹	北村 章
	企画財政部企画調整課	課長補佐	田村 満利
町田市	政策経営部企画政策課	担当係長	吉田 結子
ネットワーク多摩	事務局	事務局長	浅井 揚三
ネットワーク多摩	事務局	ディレクター	米田 啓輔